4K HDR 8K IP
Photron
www.photron-digix.jp/

映像新聞

平成31年（2019年） 1月7日 第2366号

株式会社 映像新聞社
Weekly THE EIZOSHIMBUN
(VISUAL COMMUNICATIONS JOURNAL)
〒112-0006 東京都文京区小日向1丁目24番8号エイゾービル
電話：(03)3942-2161(代)／ファクス：(03)3942-2581
昭和42年1月25日 第3種郵便物認可 郵便振替：00140-0-65786
1部600円、年間購読料26,000円(税別)

◎映像新聞社

毎週月曜日発行(月4回発行)

2019年 新年特集号

# 地上波TV高度化に本腰

## 4K、ネット融合実現へ

## 総務省 4カ年計画で調査・検討

## 新たなチャンネル見つけ出す

## NHK方式など掘り下げ

2019年は地上波放送の高度化に向けた動きが具体化する。総務省が4カ年計画で、地上波で4K放送などを実現するための各種技術の検討・調査、方式策定などを目的とした技術試験事務を公募するためだ。昨年12月1日からBS／CSによる「新4K8K衛星放送」がスタートしたが、地上波テレビの放送技術は、2003年の地デジ開始以降、ほとんど変わっていない。ネットが隆盛を極める中、地上波テレビ高度化の重要性は増している。今年はその道筋をつける重要な年になるだろう。

新4K8K衛星放送は、本格的な普及に向けての課題は多いものの、その伝送方式はネットとの親和性を兼ね備え、放送の進化という面での役割を果たしているといえる。一方で、放送メディアの主役である地上波テレビは、ネットに圧倒される状況が顕著になってきた。

こうした中で昨年、「放送を巡る諸課題に関する検討会」（諸課題検）が策定した第二次とりまとめでは、地上波について、周波数のさらなる有効活用に向けた技術的調査の実施が提言された。

そこで地上4Kや高度な放送・通信融合サービスの実現に向けた検討・調査の実施が明記されている。総務省が公募する技術試験事務はこの提言に沿ったものだ。

同技術試験事務の予算は90億円規模で、19―22年度の4カ年計画で実施する。今月中にも事業者の公募を開始。採用・委託を受けた放送局や関連技術会社などが各課題について調査・検討することになる。

第二次とりまとめでは具体的施策として、①地上4Kなどを実現するための周波数利用効率のさらなる向上②画像圧縮技術および伝送方式の高度化に資する技術開発③ホワイトスペース（テレビ周波数の空き帯域）の将来的な利用拡大に向けた技術的検討――などを挙げており、技術試験事務の取り組みもこれらを踏まえた内容になる。

合成して送る方式）、関西テレビ放送方式（地デジの13セグメントを分割して、2Kを水平偏波、4Kを水平・垂直偏波で伝送する方式）について掘り下げる。

地デジのチャンネルプラン策定のための電波伝搬シミュレーションソフト「P―MAP」のバージョンアップも実施。圧縮方式についても検討する。圧縮方式については、新4K8K衛星放送でも採用されているH・265／HEVCの次の方式「H・266」が研究開発の対象になる。

STL（Studio to Transmitter Link）／TTL（Transmitter to Transmitter Link）と呼称される放送番組伝送回線を、これまでどおり地上波で実施するのかも検討項目だ。

放送・通信融合の観点から、ハイブリッドキャストを使った4Kの同時配信の仕組みも検証する。周波数が逼迫（ひっぱく）する中で、地上4K放送をネットで補完することができれば、特にローカル局にはメリットとなる。

映像メディアは、送り手も、視聴環境も、今後10年で激変するだろう。その対応基盤として、地上波の高度化は必須要件だ。その足掛かりとなる19年は、放送業界にとって重要な年になりそうだ。


昨年12月1日、新4K8K衛星放送がスタートした

技術試験事務の第1の焦点は空きチャンネルがあるのかという点だ。これまでの検証では空きチャンネルは出ないとされているが、テレビ受信機の性能向上によって、同一チャンネル混信保護比など、従来からの技術基準を緩和できる可能性があることが指摘されており、これを調査・検討することにした。

また、これまで提案されているNHK方式（地上放送の周波数帯の中で新旧2方式を並存させながら、10年ほどの放送に移行で次の世代の放送方式（階層分割多重により、低電力TBSテレビ方式）を中心に、4K信号と2K信号を

本号の主な記事

2019年の業界展望 ……2―10

［放送］
地上波TVに新潮流/ネット接続
TVの可能性 ……11
［調査］
約7割が「4K放送を見てみたい」
J:COMが調査 ……13

Inter BEE 2018レポート⑦ 16―17

映像・情報通信関連の主要年間
行事一覧 ……19―21

映像新聞ウェブサイト
http://www.eizoshimbun.com
購読のお申し込みはこちらから

LAWO NAV & Control
IP リモートプロダクション
1RU コンパクトツールボックス
V__remote4
IP ビデオルーティング・コンバーター
8x8 ビデオ・384x384 オーディオマトリックス
FS、カラコレ、AV ディレー、MADI、Ravena I/O
オーディオ MUX・DEMUX・シャッフル
SMPTE 2022-6/7、TR-01/03/04 準拠
J2K、VC-2、H.264、MJPEG エンコーダ
AIMS
システム設計・施工・サポート
スチューダー・ジャパン-ブロードキャスト株式会社
映像システム部
tel: 03-5730-0780
email: vsys@studer.co.jp

MULTI FORMAT
WUXGA 1080/60p
AUDIO EMBEDDING
HDCP
Roland
NEW
ビデオ・プロダクションを、
世界最小サイズで(*)
MULTI-FORMAT VIDEO MIXER
V-02HD
*2018年10月現在、当社調べ。
https://proav.roland.com/jp/

# 展望2019

# 変化遂げる放送業界

2019年は放送業界が技術、ビジネス両面で大きな変化を遂げる年になる。昨年12月1日からスタートした新4K8K衛星放送は、20年の東京五輪／パラリンピック時点で「大多数の国民が視聴している」という目標に向け、コンテンツの充実と受信機普及の両面がより進展しなくてはならない。これまで議論が続けられてきた放送番組のネット同時配信は、NHKが先行してスタートすることが確実な情勢となり、放送事業者が一体となった展開の見込みはなくなった。技術に目を向けると、放送設備のIP化がどう推移するのかが焦点になる。

## 新4K8K衛星放送

新4K8K衛星放送は昨年12月1日、11事業者／19chでスタートした。開始当日、東京・四谷のホテルニューオータニで開かれた同放送開始セレモニーには、石田真敏・総務大臣をはじめ、NHKの上田良一会長、日本民間放送連盟の大久保好男会長らが来賓として登壇。4K8K推進キャラクターの深田恭子も華やかな衣装で登場し、会場を盛り上げた。

新たな放送は、総務省の掲げる4K・8K推進ロードマップの設定目標どおり順調に普及できるのか、今年はその推移が注目される。

普及の鍵は、まずコンテンツの充実だ。民放BS局の編成を見ると、報道生番組を中心にピュア4K率は10%ほど。これは広告ビジネスが伴っていない中、頑張りが感じられる比率だが、視聴者の観点では残念ながらインパクトが小さい。

番組の中身はもちろん重要だが、4Kを旗印にしている以上、ピュア4K率は重要な要素である。

こうした中で各局は、スタジオや中継車の4K化を進める一方、2K SDRと4K HDRの同時制作についても研究を進めるなど、4K番組制作の環境構築を粛々と進めている。

新4K8K衛星放送は、アナログ放送からの完全移行であった地上デジタル放送とは異なり、BS／110度CSによる、プラスアルファの放送サービスである。地デジの開始当時はほとんどなかったOTTサービスも、現在は国内外の強力な事業者がし烈な競争を繰り広げている。

こうした厳しい条件の中で、新4K8K衛星放送の事業者がどこまで番組の拡充を進め、受信機の普及につながっていくのかに着目したい。

また、今年は新4K8K衛星放送の普及を後押しするスポーツイベントがある。9月20日―11月2日、日本で開かれるラグビーW杯だ。新4K8K衛星放送の事業者では、NHKが放送するほか、J SPORTSも全試合を放送する。

注目されるのは、4K放送に1年遅れて参入する日本テレビ放送網。同局もラグビーW杯を日本戦中心に生中継するが、W杯に合わせて4K放送開始を前倒しすることも考えられる。実現すれば、最上級のラグビーの戦いを4Kで、しかも無料で楽しめる機会になるわけで、4K放送の普及に大きく貢献するだろう。



昨年12月1日の新4K8K衛星放送開始セレモニー

## ラグビーW杯が普及後押し
## 日テレの“前倒し”に注目

## ネット同時配信

放送番組のネット同時配信の行方も引き続き注視される。日本民間放送連盟（民放連）は昨年10月24日、NHKに対し、番組のインターネット常時同時配信について8項目の条件を記した要望書を送った。

## NHKが単独で開始へ

インターネット活用業務の受信料収入2・5%上限の維持③NHK常時同時配信の地域制御④ネット配信事業における民放事業者・NHKの連携⑤ガバナンス改革として外部監査の強化による事後チェック体制の拡充⑥関連団体への業務委託の透明性・適正性の向上、子会社のあり方等の見直し⑦衛星波の整理・削減を含む既存業務の大胆な見直しによる事業規模の適正化⑧受信料体系・水準等の受信料のあり方の見直し――の8項目である。

これに対してNHKは昨年11月30日に総務省で開かれた第21回の「放送を巡る諸課題に関する検討会」（諸課題検）において、指摘事項への対応について回答。しかし、「ネット事業予算の2・5%上限の維持」については守るとは明言せず、「地域制御の開始時期」もあいまいなままで、民放側からの納得は得られなかった。

また、次世代メディア研究所・鈴木祐司氏が前号で指摘したように、動画サイトの基盤整備の点でも、各論においてNHKと民放キー局の足並みはそろわず、合意は成立しなかった。

これによりネット同時配信は、NHKが今年度中に、単独でスタートすることが確実な状況になった。

民放の同時配信には、もともと法的なしばりはない。NHKの常時同時配信実現に必要な法改正の是非を議論してきたのが諸課題検であり、そのとりまとめにおいても、民放の同時配信については言及されていない。当時の高市早苗総務大臣が、民放側の理解を得ることを求めたことが現状につながっている。

〈3面に続く〉




4K LIVE PRODUCTION

撮影から中継、送出に至るまで、Ikegamiの放送機器が生み出す4K映像の表現力と魅力をliveでつなげるSolutionを提供します。



| 4K/HD スタジオカメラ | 4K/HD ポータブルカメラ | 4K・IP伝送対応 デュアルモード・デジタルFPU装置 | 4K ライブプロダクション スイッチャ | 4K/HD マルチフォーマットLCDモニタ |
|---|---|---|---|---|
| UHK-435 | UHK-430 | PF-900 | MuPS-5000 | HQLM series |

池上通信機株式會社 〒146-8567 東京都大田区池上 5-6-16　www.ikegami.co.jp

お問い合わせは　●放送システム営業第1部 TEL:03-5748-2201 / TEL:03-5748-2221 ●大阪支店TEL:06-6389-4466 ●名古屋支店 TEL：052-705-6521 または右記営業所へ ●札幌TEL：011-231-8218 ●仙台TEL：022-292-2420 ●福岡TEL：092-451-2521

〈2面から続く〉

同時配信にはいまのところ、民放に収益をもたらす直接的な要素がない。電波と異なり、ネット配信は配信先が拡大すればするほど、設備費用が膨らむ。番組の権利処理、CMをどう配信するのかという問題もある。

一方で民放には、広告収入が伸びず、電波利用料も大幅に値上げされるなど、経営面のマイナス要素も多い。こうした状況では、同時配信に慎重なのも当然といえるだろう。

民放はネット配信に後ろ向きという訳ではない。各局はそれぞれのスタンスで動画配信ビジネスに取り組んでおり、成果を収めている。

民放の同時配信は、スポーツを中心に各局が取り組みを拡大していくことになるだろう。既に多くの局が、駅伝やサッカーなどの中継を同時配信して経験を積み上げている。スポーツは同時配信、ドラマはTVerなどの見逃し配信で、といった展開が考えられそうだ。9月にNHKが常時同時配信を始めることになれば、その情報開示によって知見を得ることも期待できる。

またNHKと民放が同時に常時同時配信をすることには、ネットワークインフラが輻輳するとの懸念から、通信事業者から反対意向もあるという。こうした状況を勘案すると、NHKと民放一斉の同時配信への取り組み機運が消滅したことは必然的にも見える。

## 民放はスポーツ中心
### 先行のNHKから知見も

## CATV

CATV業界にとって今年は、新4K放送の普及を進めつつ、数年後の5Gへの参入準備を進めていく年になるだろう。新4K放送は、CATV業界にとって大きなビジネスチャンスである。

### 5Gの免許取得目指し準備
### 地域BWAへの取り組み鍵に

4K対応の第3世代STBを利用すれば、外付けチューナーと変わらない価格で、しかもアンテナ不要で簡単に新4Kが視聴できるからだ。現在、市場には4Kチューナーが内蔵されていないテレビが相当数在庫として残っており、これらがさらに安く販売されるようになれば、売り方の工夫次第でチャンスは広がるだろう。

新4K放送の開始においては、J:COMが第3世代STBのバグつぶしを周到に進めスムーズにスタート。CATV業界が共同調達したSTBはバグ対応について事業者間で判断の違いがあり、一斉にスタートする形にはならなかったが、バグは想定内のもので、徐々に解消している。

5Gについては、日本ケーブルテレビ連盟が免許取得に意欲を持っている。ビジネスとしてはインターネットのラストワンマイル、または基地局を設けて通信キャリアに貸し出すといったことが考えられるだろう。

5Gの免許取得に向けては、地域BWA（地域広帯域移動無線アクセス）の取り組みと普及が鍵となる。5Gの免許を取得するためには、行政に対して、現在のCATVの無線サービスである地域BWAにしっかりと取り組んでいることを示す必要があるからだ。

業界共通のID「ケーブルID」によるサービス導入も注目される。

## 放送設備IP化

放送局の技術者にとって最大のテーマが放送機器のIP化だろう。

4K放送の開始に伴い更新されている放送局のライブ制作スタジオは、機器間インタフェースに12G-SDIが採用されるケースが目立っているが、ショッピングチャンネルのQVCやスカパーJSAT、ジュピターテレコム（J:COM）など、マスター系をIP化する動きも出てきた。4K中継車をIPで組むケースも増えている。

そうした中、今年注目されるのが、SMPTEが定めた放送システム用のIP標準「SMPTE ST2110」関連機器の動向だ。

昨年11月のInterBEE2018では、池上通信機やフォトロン、ヒビノなど各社がそれぞれのブースに設置したカメラ、スイッチャー、プロダクションサーバー、ストリーム解析装置などをST2110で結び、IPで局内インフラを組むことを想定したデモを実施して注目された。

ある放送局の技術者は、ST2110で本当に放送設備を構築するには圧縮装置など要素技術がまだ不足している面があると指摘する。規格化の進展とともに、こうした要素技術・機材の登場が期待されるだろう。

放送設備のIP化は欧米で確実に進んでいる。ただし、この潮流が単純に日本に流れ込むことにはならない。なぜなら世界ではHD放送が成長途上であり、いまだSDの放送局が少なくないからだ。



Inter BEE 2018のIPシステムソリューションのデモ（池上通信機ブース）

## ST2110の要素技術が課題
## 「プラグアンドプレイ」システムに

日本の放送局は、HD放送を主体としつつ、4K・8K放送に取り組んでいる。各局の放送設備の映像伝送インタフェースはSDIが基本であり、4Kの放送設備もそれに沿った方が自然だ。現在、各局のスタジオの4K化で12G-SDIが採用されているのは当然の流れといえる。

SDIは既に成熟した技術であり、放送局ではSDIによるワークフローが完成されている。その仕組みをIPに切り替えるというのは難しい面があるだろう。

今後、放送設備のIP化は、放送局から遠隔地のカメラ制御やスイッチング、多チャンネル音声の伝送・収録など、IPのメリットが顕著なリモートプロダクション、または中継車、クローズドなスタジオなどで利用が進むと考えられる。その中で要素技術、関連機器も拡充していくはずだ。

また現在のIPの放送設備は、SDI機器とは使い勝手がかなり異なる。今後の放送の現場で利用される中で、機器を接続するだけで自動的に機器を検出、適切な設定をしてすぐに使えるというものではない。

アドレス設定が必要で、双方向通信が基本のIPは、SDI機器とは使い勝手がかなり異なる。今後の放送の現場で利用される中で、機器を接続するだけで自動的に機器を検出、適切な設定をしてすぐに使える「プラグアンドプレイ」システムに進化していく必要がある。そうなればIP化は一気に進んでいくだろう。


WWW.ZEAL.JP



映画撮影　テレビコマーシャル撮影　テレビ番組＆ドラマ撮影
ミュージックビデオ撮影　船舶運航手配　水辺での撮影の安全管理
水中撮影技術全般　　マリン用品レンタル

水中撮影・水上撮影・船舶撮影

We are Marine Coodinator for the Underwater / Surface / Ship Shooting in Japan.



WCU-4による外部からのシネレンズコントロールが可能な
水中撮影システムが2018年09月より本格稼働しました。

New Debut, the Nautilus Hybrid Underwater Housing for ALEXA mini & RED.

海や川という自然が相手の特殊な撮影には、豊富な経験と専門知識が必要となります。
ジールでは、専属のスタッフが水中・水上・船舶撮影のロケーション手配・安全管理・演技者のケア・プロスタッフ手配（水中モデル・水中スタント・セーフティーダイバー・プロサーファーなど）、海ばかりでなくあらゆる水辺（川・湖・沼・池・プール）での撮影をフルサポート致します。
また、待望のALEXA mini & REDでのシネレンズ対応の水中撮影機材が新登場！
有線による外部モニター出力のほか、WCU-4によるシネレンズのフォローフォーカスなど外部コントロールで4K～8Kの水中撮影が可能となりました。
水辺のスペシャリスト“ジール”があなたの撮影を可能にします。

ZEAL MARINE COORDINATE

水中撮影・水上撮影・船舶撮影の専門コーディネーター　株式会社ジール　撮影事業部
TEL 03-6809-3555　FAX 03-3454-7869　E-MAIL shoot@zeal.jp
［芝浦本社］東京都港区海岸3-21-35 芝浦岸壁ビル2F 〒108-0022　ZEAL Co.,LTD.



POMFORT fn LiveGrade PRO
ポムフォート ライブグレードプロ



ライブグレードで
オンセット・カラーグレーディング



LiveGradeは、HD-SDIやUHD/4Kライブ映像フィードへのカラーコレクション操作をリアルタイムに反映。LUT/ルックを適用した映像の確認や、ルックの作成、プレビュー、ルックの比較検討が撮影現場で行えます。

POMFORT fn Silverstack
ポムフォート・シルバースタック
オールインワン撮影素材管理ツール「シルバースタック」



大切な素材管理とカラーの
ワークフローをシンプルに。



撮影素材のプレビュー、整理・分類、バックアップ、編集工程の下準備をこなせる撮影メディア管理ツール。
各種RAWフォーマットに対応するほか、新たにカラーの管理や、クリップごとのカラーデータとのマッチング機能を追加しました。

えいぞうこ
EIZOKO
NAS機能つきアーカイブアプライアンス

シナジー「EIZOKO」（えいぞうこ）は、LTOテープへのアーカイブとアーカイブ後のデータの活用を快適にする機能を備えた映像制作者に最適なアーカイブシステムです。

Archiware P5をストレージOSに統合し、あらゆるメディアデータをLTOで保管・管理。 映像制作において使用される、台本や香盤表のワードやPDFから予算管理のエクセルデータまで全てをLTOへアーカイブします。



映像用途に特化した国産NASストレージ
MIDO NAS

CineRAID
Advanced Storage for Digital Cinema

Macで放送局システムを構築するブロードキャストスイート
tools ON air
ツールズオンエア

プロジェクト共有・管理 編集コラボレーションシステム
STRAWBERRY
by FLAVOURsys
フレイバーシス・ストロベリー

Synergy 株式会社シナジー　www.synergykk.com　TEL：03-3654-3883

# 謹んで新年のお慶びを申し上げます

平成31年新年


IP Series TriCaster 3Play TalkShow
NewTek
http://tricaster.jp/
4K 60P 対応
時代はNDIへ。


NDI Network Device Interface

ASK Media and Enterprise
株式会社アスク
メディア＆エンタープライズ事業部
ライブ映像システム営業部
〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-8-21 山脇ビル 11F

D STORM, Inc.
株式会社ディストーム
TriCaster 事業部
〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-8-21 山脇ビル 7F

---

株式会社アクシスアソシエイツ
エーエーアイスタジオ
代表取締役 池田 克己
〒105-0004
東京都港区新橋6-16-10 御成門BNビル5,6F
TEL 03-3434-0721 http://www.aai-s.co.jp

---

AZABU Leasing
クリエイティヴ・コア 株式会社
麻布リース事業本部
取締役社長
勝賀瀬　修
〒105-0004
東京都港区新橋 5-26-5
撮影機材レンタル
Tel. 03-6402-1234
プロメディア販売
Tel.03-6402-1241
共通 Fax. 03-6402-1235
データ変換事業部
Tel. 03-6402-1311 Fax. 03-6435-7717
http://www.cr-core.com/

AZABU PLAZA
ポストプロダクション
麻布プラザ株式会社
代表取締役社長
大橋　崇
三田編集センター
東京都港区三田 1-2-18TTD プラザ
Tel. 03-3453-1122 Fax.03-3453-3344
赤坂編集センター
東京都港区元赤坂 1-7-20 TTS 元赤坂ビル
Tel. 03-3470-1701 Fax.03-3470-1720
汐留編集センター
東京都港区東新橋 1-3-1 第 2 小田ビル 8F
Tel. 03-6435-0201
http://www.wo-gr.jp/azp/

---

VISUAL SOLUTION PROVIDER
共信コミュニケーションズ株式会社 Kyoshincommunications
代表取締役社長
尾﨑　享
〒141-0001
東京都品川区北品川 5-9-11 大崎 MT ビル 3F・4F
共信コミュニケーションズ株式会社
Tel. 03-3445-2070 Fax. 03-5449-6672
http://www.kycom.co.jp/

---

ngc
https://www.ngc.co.jp
代表取締役社長
高塚　俊樹
株式会社エヌジーシー
TOKYO (HQ) | CHUBU | OSAKA
〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2
MFPR 麹町ビル 7 階
TEL 03-6380-8142 | FAX 03-3222-2601

---

SFI Leasing
時代や環境の変化に即した設備導入を
様々なリースプログラムで実現します
SFIリーシング株式会社
代表取締役社長　松村 弘
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番1号
TEL:03-4360-8551
http://www.sfil.co.jp

---

STUDIO WELT
代表取締役
安井純治
03(3433)9371
http://www.welt.co.jp

---

ASTRO
代表取締役社長
鈴木茂昭
アストロデザイン株式会社
〒145-0066
東京都大田区南雪谷 1-5-2
TEL 03-5734-6300
FAX 03-5734-6101
URL http://www.astrodesign.co.jp

---

IDK with your vision, Always.
おかげさまで
創立 30 周年
30th Anniversary Since 1989
代表取締役
岩﨑 秀樹
株式会社 アイ・ディ・ケイ
〒242-0021 神奈川県大和市中央 7-9-1
TEL 046-200-0764
http://www.idk.co.jp

---

KYORITZ Live Communications
株式会社 共立映像
代表取締役社長
村上　晃
〒151-0053
東京都渋谷区代々木5-40-13
共立ビル2F
TEL.03-3469-1507
FAX.03-3460-9370
http://video.kyoritz.co.jp

---

ONKIO HAUS
代表取締役会長
広岡 淳利
代表取締役社長
高根 護康
株式会社 音響ハウス
〒104-0061
東京都中央区銀座 1-23-8
TEL 03-3564-4181
FAX 03-3567-0935
https://www.onkio.co.jp

---

S.C. ALLIANCE Inc.
株式会社
エス・シー・アライアンス
代表取締役 山中洋一
■早稲田スタジオ
〒162-0042東京都新宿区早稲田町75
☎03-3202-2341
http://www.sc-a.jp

---

代表取締役社長
尾﨑　求
AVC 株式会社 映像センター
AUDIO VISUAL COMMUNICATIONS LTD.
〒135-0063
東京都江東区有明3-7-18
有明セントラルタワー8F
TEL:03-3527-8571
http://www.avc.co.jp/

---

anami
アナミ海外株式会社
代表取締役
山本三佐男
〒164-0011
東京都中野区中央4-6-18-2F
Tel:03-3384-1860
Fax:03-3384-1867
http:/www.anamikaigai.co.jp

---

i▶TEM
代表取締役社長
亀ヶ谷 文彦
株式会社アイテム
〒210-0826
神奈川県川崎市川崎区塩浜
4-13-15
Phone (044)266-1171
Fax (044)266-1389

---

株式会社
銀座サクラヤ
代表取締役
風見静枝
70th
本社・経理
〒104-0061 東京都中央区銀座 2-8-5
TEL 03-3561-6151
セールス&レンタル Div.
〒111-0051 東京都台東区蔵前 3-12-2
TEL 03-3863-5171
Ginza Sakuraya TOTAL AV SOLUTION

---

代表取締役
佐藤宣明
株式会社 ガル・エンタープライズ
〒104-0042
東京都中央区入船3-7-2 山崎ビル2F
TEL:03-3206-0180 / FAX:03-3206-0190

---

映像装置の校正
CalMAN
HDR10, HLG, DolbyVison
BT.2020, DCI-P3, etc.
株式会社エディピット
www.edipit.co.jp
104-0061
東京都中央区銀座 5-6-12 bizcube 7F
TEL 03-5931-7930 FAX 03-6685-5864

---

公益社団法人
映像文化製作者連盟
会長
塚田　芳夫
〒103-0016
東京都中央区日本橋小網町17-18
藤和日本橋小網町ビル7階
TEL (03) 3662-0236/FAX (03) 3662-0238
http://www.eibunren.or.jp

---

AVID
4K/8K / Cloud
リージョナルセールスダイレクター / Asia
池内 亨
アビッド テクノロジー 株式会社
〒107-0052
東京都港区赤坂 2-11-7 ATT 新館ビル 4F
代表 TEL: 03-3505-7937
代表 FAX: 03-3505-7538
www.avid.com/ja/

---

i-NEX+
コンテンツ制作を
ワンストップで。
株式会社アイネックス
〒553-0003
大阪市福島区福島 2 丁目 4 番 3 号
ABC アネックス 4F
Tel 06-6452-2018
www.i-nex.jp

---

STAFF
㈱クリエイティヴスタッフ
代表取締役
及川重美
〒980-0014
宮城県仙台市青葉区本町二丁目10-23
仙台いちょう坂ハルヤマビル8F
TEL 022 221-5281
http://www.c-staff.jp/

---

株式会社 教映社
代表取締役社長
佐藤一男
本社 535-0002 大阪市旭区大宮四―一五―六
イベント（事）電話（〇六）六九五一―七七一七
東京支店電話（〇六）六八一五―三〇一二
神戸支店電話（〇三）三五二二―一六二一
京都支店電話（〇七八）三七一―三一八八
電話（〇七五）五三一―五一一〇

---

NKL
株式会社NKL
代表取締役
軽部　進一
日本映画監督協会会員
〒183-0005
東京都府中市若松町 2 丁目 30-5
NKL ビルディング
TEL 042-358-0777 FAX 042-358-0790
URL http://www.nkl.jp/

---

謹賀新年

代表取締役社長
西 美砂子
株式会社 エクサインタープショナル
〒107-0052 東京都港区赤坂 2-16-9
TEL 03-5575-3911 FAX 03-5575-3910
www.exa-int.co.jp

---

ITOCHU
伊藤忠ケーブルシステム株式会社
代表取締役社長
土屋　健二
〒141-0022
東京都品川区東五反田 3-20-14
高輪パークタワー
TEL：03-6277-1821（代表）
FAX：03-6277-1850
https://www.itochu-cable.co.jp

---

aoi
アオイスタジオ株式会社
代表取締役社長
岩成正和
106-0045
東京都港区麻布十番一―一―一四
電話（〇三）三五八二―三八一一
FAX（〇三）三五八二―九六八二

# 展望2019

2018年は、12月1日からNHKおよび民放局による「新4K8KBS放送」が開始された。制作ツールは、4Kはもちろんクラウド対応など一段と進化を遂げている。一方、映像コンテンツはライブエンターテインメントで活用されることが多くなっている。プロダクションにはコンテンツの本質を見極め実現する力が求められている。

# 多様化する「映像コンテンツ」
# 問われる制作コーディネート力

## 映像プロダクション

日本ポストプロダクション協会（JPPA）調査・事業委員会は18年、正会員社89社を対象に実施した設備調査（17年10月）の結果を発表した。これによると、会員社のノンリニア編集室は80社536室、リニア編集室は41社198室、計734室となる。前回調査（15年）でも回答している66社で比較すると、ノンリニア編集室は38%増加したことになる。

このうち、4Kあるいはそれ以上の解像度対応編集室として運用されているのは75室で、54室は4Kマスターモニターを設置。14室はモニターの増設により4Kモニタリングが可能となる。

また、2種以上の編集ソフトウエアを持つ編集室は、ノンリニア編集室536室の約62%である330室。ノンリニア編集室内にグレーディングシステムを併用しているのは、前回調査の24室から105室と4倍以上に伸びており、ノンリニアグレーディングシステムが台頭している。

従来のプロダクションは、特定のハイエンド設備を「売り」としていたが、制作ツールの低廉化とワークステーションの高性能化により、複数システムから最適なものを選んで使える時代となった。4K8KBS放送とのサイマル制作もあり、ツールを使う側の機材マネジメント力や、ネットワークとサーバーをベースにしたワークフローの構築力が一層重要になってくる。

個別のツールでは、ブラックマジックデザイン「ダビンチリゾルブ」が、カラーグレーディングの機能に加え編集、VFX、音響の機能を搭載したことで、「オールインワン」としての存在感が出てきた。

アドビ「クリエイティブクラウド」は総合的な制作システムとしてプロの現場に定着。アビッド「メディアコンポーザー」は編集ツールとして地位を確立すると同時に、クラウド化を促進している。

グラスバレー「EDIUS」は、4Kおよび8K編集を支えると同時に、AWS S3へのダイレクトアクセスを実現したことでクラウド対応を本格化。S3を利用することで、他社サービスとの迅速な連携やAWSの多彩なサービスの利用が可能となっている。旧SAMの「Rio」も開発継続を明らかにしている。

さくら映機「4K Prunus」はHD同等の操作感を誇る。ライブ制作システムなどのライン アップも増やしている。

### ◆まずはファイルベースから

とはいえ、放送番組の制作に関してはリニア編集システムがまだ強く、ファイルベースの運用体制の構築がまずは必要だ。23年にはVTRの保守サービスも終了し、今後、VTRを前提としたシステムを健全に維持構築するのは難しい点が多くなる。エディターがこれまでと違うスキルやワークフローの知識を身につけるには相応の時間が必要になることから、ポストプロダクションは準備を急がねばならない。

麻布プラザ（東京都港区）では、5年ほど前からリニア編集システムからの移行を図り、今では多くの作品をノンリニアシステムで一気通貫で編集している。

ノンリニアシステムであれば、学校で操作を学んだ若者が活躍しやすい環境をつくることが可能。顧客からのノンリニアシステムの指定も半数を超えているという。「ノンリニア編集の運用について学びたい」という他社の研修も受け入れている。

藤本秀基副社長は「リニア編集システムだけでは顧客のニーズとの差が生まれていく。4K制作という課題にも、ノンリニアシステムであればオペレーションを変えずに対応できる。業界がより良くなるようノンリニアシステムの活用を進めたい」と話している。

### ◆リモートプロダクションへの取り組みも

中継、撮影の現場では、フルIPインフラを利用したリモートプロダクションへの取り組みに注目したい。

テレテック（東京都港区）はリモートプロダクションをプロゴルフのマッチプレー大会で運用した。現地ではワイヤレスカメラを中心に撮影。都内に伝送し社内のリモートサブで映像を制作した。

サイバーエージェントは、東京・神宮前の同社スタジオ「シャトーアメーバ」と、同社が構築した浜松町の「Mリーグスタジオ」との間で、リモートプロダクションを前提にしたIP伝送の実証実験を実施。運用の課題を検証している。

リモートプロダクションは、ネットワーク運用や現地とスタジオの役割分担などさまざまな課題があるが、中継設備の設置時間や派遣するスタッフの人員数を抑えられる利点がある。

IPによる省力化やAIによる自動化は、中継、撮影、収録など制作のさまざまな工程で有効に働くと思われる。

### ◆多様化する「映像」

映像はこれまで、ディスプレーやスクリーンという「面」に映すものであった。現在はこれが2次元にとどまらず、「空間」で利用されることが一般的になってきた。コンサートのステージ上で使われる大型LEDディスプレーはその1つであり、映像は、照明など他の演出と融合しながら提供されるようになってきた。「ライブビューイングエンタテインメント」の活性化である。

イマジカ・ロボットホールディングス（現IMAGICA GROUP）は18年3月、横浜で開催されたファッションイベントを都内にライブ伝送し、横12・8×縦2・5㍍の大型スクリーンに12K×2Kの映像を映し出した。左右に立てたアクリルパネルに実物大のモデルの映像を映し、大型映像とシンクロさせることで、演出に立体感を加えるなどの工夫も施した。

パナソニック映像（東京都品川区）は、パブリックビューイングには集客力の高さが求められているとして、自社イベントで「ライブ中継マッピング」を提案した。遠隔地から伝送した映像をリアルタイムでマッピングするとともに、DJによる音楽パフォーマンス、照明演出で空間を演出。制作力と撮影、伝送、マッピングといった複合的な技術力を訴求した。


パナソニック映像のライブ中継マッピング

18年末には、コニカミノルタプラネタリウムが、プラネタリウムを核とするドームシアターコンプレックスを都内に開業。プラネタリウムや映像を、ライブパフォーマンス、音楽ライブを混在させて提供しようとしている。スポーツでも観戦に新しい映像体験を加える試みが広がっている。

テレビやストリーミングでの視聴、空間での体感など、コンテンツが提供される形は多様化が進むがその本質は変わらないのではないか。ファッションイベント伝送のプロデューサーを務めたIMAGICA GROUPの諸石治之氏は、「コンテンツはストーリーや世界観、フォーマットから生まれるもの」としたうえで、コンテンツ制作とは「その中心にあるものを読み解き新しい形で再構築することで、見る人が楽しめるものをつくる」ことだとする。

さらに、「今後、テクノロジーとクリエイティブで付加価値をつけることで、ライブビューイングは、ライブエンターテインメントとしての『深化した世界観』を楽しんでもらう場になるのではないか」と話している。

プロダクションに今後問われていくのは、コンテンツの本質を見る力と、それを実現する撮影、編集などの技術をコーディネートする力になるだろう。


謹んで新年のお慶びを申し上げます
平成31年新年

CREEK & RIVER Co., Ltd.
代表取締役社長
井川　幸広
株式会社クリーク・アンド・リバー社
〒105-0004
東京都港区新橋四丁目1番1号　新虎通り CORE
TEL：03-4550-0011（代）
FAX：03-4550-0010
〒542-0081
大阪市中央区南船場3丁目5番8号　オーク心斎橋ビル8階
TEL：06-7711-1011（代）
FAX：06-7711-1021
creek@hq.cri.co.jp　http://www.cri.co.jp/

株式会社NHKメディアテクノロジー
代表取締役社長
松本睦雄
〒150-0047
東京都渋谷区神山町四―十四（第三共同ビル）
電話　〇三（三四八一）七八二〇
FAX　〇三（三四八一）七六〇九

nep NHKエンタープライズ
株式会社NHKエンタープライズ
代表取締役社長
板野裕爾
〒150-0047
東京都渋谷区神山町四―一四（第三共同ビル）
電話　〇三（三四八一）七八〇〇（代）

NHK ART
代表取締役社長
下川雅也
株式会社NHKアート
〒151-0063
東京都渋谷区富ヶ谷1-14-7　アートビル
TEL (03)3481-2881
FAX (03)3481-2905
http://www.nhk-art.co.jp/

過去×未来　人×映像
IMAGICA Lab.
imagica
株式会社IMAGICA Lab.
〒141-0022 東京都品川区東五反田2-14-1
TEL:03-3280-7500　FAX:03-3280-7503　www.imagicalab.co.jp

# 謹んで新年のお慶びを申し上げます

平成31年新年

30th Anniversary
THANK YOU
株式会社テックス
代表取締役　鈴木 由美子
Visual Communication Office Tec'S 株式会社テックス

映像・音響システムの設計・開発・施工・保守
ジャパンブロードキャストソリューションズ 株式会社
jbs-inc.jp
代表取締役社長
山根　浩二
■大阪本社　〒541-0042　大阪市中央区今橋1-6-19 コルマー北浜ビル1F
TEL：06-6228-3131　/　FAX：06-6228-3132
■東京支店　〒108-0073　東京都港区三田3-4-2 6F
TEL：03-6809-3072　/　FAX：03-6809-3074
編集・4Kカラーグレーディング・販売
株式会社JBSクロス
TEL：06-6241-2088
jbs-x.jp
映像・放送機器レンタル
株式会社イングスJBS
TEL：06-6202-1247
ings-jbs.jp
2018年5月NEW OPEN
ブラックマジックデザイン 大阪ストア
〒541-0058 大阪府大阪市中央区南久宝寺町 4丁目3-9 丸盛ビル
TEL：06-6484-5544　営業時間：月・金 10:00 am - 18:00 pm
Blackmagicdesign

SAN-EI TV
"人と技術"で新しい価値を創造する
放送設備
シネマ
デジタルサイネージ
Technology Creative
大型映像
蓄電池
メディカル
設計・施工・調整・保守のワンストップサービス
サンエイテレビ株式会社　http://www.sanei-tv.co.jp/

DIGITAL GARDEN INC.
代表取締役社長
足立 晋一
〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿2-36-13 広尾SKビル3F
phone/03-5791-2215　facsimile/03-5791-2245
http://www.dgi.co.jp

千代田ビデオ
www.chiyoda-v.co.jp
代表取締役社長
島岡　唯信
株式会社
千代田ビデオ
［本社］
〒102-0091
東京都千代田区北の丸公園2-1　科学技術館2F
TEL 03-3215-2741　FAX 03-3201-7366
［編集センター 3one］
〒150-0044
東京都渋谷区円山町19-1　渋谷プライムプラザ B1F
TEL 03-5457-2131　FAX 03-5457-2132

SiliconCore
redefines clarity
代表
梅村　誠
Umemura Makoto
シリコンコア・テクノロジー 合同会社
〒222-0033
神奈川県横浜市港北区新横浜
3-8-8 日総第16ビル 7F
Tel：045-475-1858
www.silicon-core.co.jp

Cima
株式会社シーマ
代表取締役社長
堤 裕成
大阪本社
〒564-0053
大阪府吹田市江の木町20-10
TEL.06-6310-4100
www.cima-net.co.jp

株式会社 サニー
代表取締役
安田泰司
151-0066
東京都渋谷区西原三ー七ー一三
電話（〇三）三四六六ー〇三九五
FAX（〇三）三四六六ー一二一一

cross TV
代表取締役社長
髙見 鉄男
株式会社
クロステレビ
〒162-0043
東京都新宿区早稲田南町56-2
TEL03-3200-8011（代表）

阪急阪神東宝グループ
togen
To Generation Next
株式会社東京現像所
代表取締役社長
矢部　勝
〒182-8555
東京都調布市富士見町二の十三
電話　〇四二（四八五）九九一〇
FAX　〇四二（四八一）六一〇〇

トータル技術をプロデュース
T-TEX
代表取締役社長
加藤嘉一
株式会社TBSテックス
〒107-0052
東京都港区赤坂2-5-4 赤坂室町ビル6F
TEL 03-3505-7050　FAX 03-3505-7051
http://www.tbs-tex.co.jp

代表取締役社長
茨木 繁
STUDIO B&M
株式会社 スタジオ・ビーアンドエム
〒530-0002
大阪市北区曽根崎新地2-6-12 小学館ビル
TEL：(06) 6341 - 2285
http://www.st-bm.com

JTB
株式会社JTB
新宿第二事業部
事業部長
名取 克
〒163-0426
東京都新宿区西新宿二ー一ー一
新宿三井ビル二六階
TEL（〇三）五九〇九ー八一〇二

感即動、心に残る映像表現。
SVS SAN-IN VIDEO SYSTEM
代表取締役
髙橋 宏之
株式会社山陰ビデオシステム
http://www.s-video.co.jp
〒683-0801 鳥取県米子市新開2丁目1-7
TEL 0859-32-6100
FAX 0859-22-8160

K-WILL
代表取締役社長
工学博士
浜田 高宏
株式会社 K-WILL
〒194-0001
東京都町田市つくし野3-23-41
マルビシビル 2階
TEL 042-788-3833
FAX 042-788-3835
www.kmw.co.jp/

TOKYO KOON
株式会社東京光音
フィルム／ビデオ／サウンド／デジタル修復・復元センター
代表取締役社長
三鬼 浩
〒151-0061
東京都渋谷区初台1の47の1
小田急西新宿ビル1階
TEL：03（5354）6510
FAX：03（5354）6515
www.koon.co.jp

TBS
株式会社 TBSテレビ
〒107-8006
東京都港区赤坂5-3-6
Tel.03-3746-1111
http://www.tbs.co.jp/

SMA
株式会社SMAホールディングス
CEO
緒方 克彦
〒150-0011 東京都渋谷区東1-27-10東海ビル8F
TEL：03-6452-6460　FAX：03-6452-6461
株式会社SMAホールディングス
株式会社ストロベリーメディアアーツ
株式会社エス・エム・エイ（SMA）
株式会社SMAクリエイティブ

株式会社
松竹映像センター
SHOCHIKU MediaWorX Inc.
代表取締役社長
久野 達士
代表取締役副社長
阿部　勉
〒135-0091
東京都港区台場2-3-5
台場ガーデンシティビル 7F
TEL 03-6758-0248

人にTouch 世界にTouch
Sunmulon
世界初の技術
SMT照光式スイッチ
代表取締役社長
川島 敬介
株式会社 サンミューロン
〒142-0041
東京都品川区戸越3丁目1番10号
TEL 03-3783-6721
http://www.sunmulon.co.jp

AV COMMUNICATION SYSTEM
KOWA
株式会社 光和
代表取締役社長
小泉 俊哉
東京本社
〒135-0053
東京都江東区辰巳1丁目5番地25号
営業本部 営業部
TEL：03-3522-2341
FAX：03-3522-2349
レンタル本部 レンタル営業部
TEL：03-3522-1040
FAX：03-3522-2190
http://www.kowanet.co.jp

TSP
Tokyo Sound Production
（株）東京サウンド・プロダクション
代表取締役社長　三上信一
〒106-0031
東京都港区西麻布2-24-11
麻布ウェストビル4F
TEL 03-5466-5645
FAX 03-5466-5636
http://tsp.co.jp

TechnoHouse
代表取締役社長
櫛引 則彦
株式会社テクノハウス
東京都中央区湊2-12-11 IXOSビル
03-3553-8061
www.technohouse.co.jp

TAKENAKA
謹賀新年 2019
代表取締役
武仲 秀晃
SYMUNITY GROUP
www.takenaka-co.co.jp/

新聞・書籍・雑誌
カタログ・チラシ・パンフレット等
総合印刷
情報印刷株式会社
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋四ー二ー二
電話〇三（三二六二）五七四〇（代）
FAX〇三（三二六四）一〇〇五
E-mail:info@johopt.com

CCOM
デジタル映像
制作システム構築
インフラ設計／施工
株式会社シーコム
ソリューション事業部
〒160-0022
東京都新宿区新宿4-1-19 冨美ビル
TEL（03）5366-1823　FAX（03）5366-1824
URL http://www.ccom.ne.jp/solution/

メディアコンテンツビジネス
新時代を支える専門イベント
Connected Media TOKYO 2019 12-14 JUNE
http://www.f2ff.jp/cmt
DSJ2019 Digital Signage Japan
デジタルサイネージ ジャパン
http://www.f2ff.jp/dsj
2019年6月12日（水）-14日（金）
幕張メッセ
【お問い合わせ先】
（株）ナノオプト・メディア
june-info@f2ff.jp
NANOOPTMedia

# 展望2019

# 次世代地上放送と受像機の行方

## 提供サービスの根幹見直し

## 広い視野からの提案が必要

## 地域の需要を生かす方法模索

## 5G移動通信の存在も圧力

2018年は、UHD（4K・8K）の本放送が始まり、放送フォーマットに新たな展開が始まった。デジタル化、HD化と進んできた放送フォーマットに8Kという全く新しいジャンルが登場した。衛星UHD放送の開始により、次は地上放送の高度化が本格化するだろう。地上波の高度化は、UHD化や次世代変調方式の採用との方向から検討が続けられている。しかし、それだけで十分であろうか。放送が提供するサービスの根幹から考えないと、ネット時代に魅力あるものが作れないのではないかと危惧する。諸外国の次世代地上テレビ方式提案をにらみつつ、日本は地上波放送の高度化にどのように進むのであろうか。その時、テレビ受像機にはどのような機能を持たせるのか。広い視野からの提案が必要だ。

（杉沼浩司）

**★瞬く間の15年**

2003年12月に始まった日本の地上デジタル放送は、15年が経過した。にじみのない映像によるキレの良さ、ハイビジョン化によるキメの細かさでSDTVアナログ方式を圧倒した。日本で採用していたアナログ放送方式では、どうしても色のにじみは解消できなかったが、地デジ化で一新された。

それから15年、放送方式は次をうかがう段階に達している。確かに、地上波放送は鮮やかな映像を運んでいるが、時代の要請に応え切れているとは言いがたい。

放送とネットの「融合」として、データ放送が整備されているが、「dボタン」による基本的なデータ放送は機能が限られ一局（ネットワーク局）×768など）となるであろうが、中型以上は4Kが当然となる。それ故に、表示解像度として4Kをサポートしても、視聴者に負担を強いることは考えにくい。

ただ、地上波の4K化は十分に価値があるが、それだけではBS放送と同様な価値提供となる。その他の価値が欲しい。

1つには、多チャンネル化が考えられる。小さなコミュニティー向けへの放送の可能性は十分にある。このコミュニティーは、地域的な面積だけを指すのではない。視聴者属性により形作られるコミュニティーだ。

エスニック・グループ（出身地域によるコミュニティー）も存在しうるし、別の観点によるコミュニティーもある。免許制度の改変は必要だが、帯域だけを買い、自らは設備を持たない放送事業者という形が許されれば、このような「コミュニティー局」は多数作り出せる。ある地上局が帯域をUHD化に使わず、多チャンネル化に使うという判断をすることもあり得るだろう。

ほかにも「電波とネットの連携利用を推進する」ために帯域を使うという局が出得る。電波は、広域に一斉同報するための手段として用いて、ほとんどの事業をネットで実行するという考え方もあるだろう。

このような、将来の地上波のユースケース（利用例）を検討する。そして機能要求をするといった作業が必要となる。古典的な放送の姿を離れて、考えることが求められる。

この時、放送塔は電波利用との根幹があるだけに、一斉同報機能自体も選択肢の1つとしてよいかもしれない。電波を使ったアプリケーションの1つに放送がある、というところまで考えを広げた上で、次世代の放送サービスが何を選択するかと考えた方が、幅広い検討ができるだろう。

**★複数の外圧**

地上波には、いろいろな「外圧」がある。まず帯域幅の確保だ。2019年開催のWRC（世界無線通信会議）から30年代以降のテレビ放送帯域の検討が始まる。

現在、おおむね700MHz以下に確保されている地上波テレビ用の帯域がどうなるか、WRCの議論による。変調技術の進歩により、現在ほどの帯域幅を必要としないとの声が強まれば、テレビ用帯域の削減が求められるだろう。

一方、有効な利用をアピールできれば、帯域は維持できる。2000年ごろの技術（地上デジタル放送の第1世代技術）を使い続けるとの主張は、帯域幅の浪費と判断されかねない。携帯電話などの移動通信システムは、約10年に一度の改定により電波の利用効率を高めている。放送システムが50年間同じ利用効率であることは許されないだろう。

アナログ時代は放送方式の改訂は50年ごとと言われた。しかし、周辺技術が大いに進歩している現在、20世紀の無線技術のペースでは納得を得られない。また、視聴者（消費者）事情も変化している。テレビ受像機の所有年数は、アナログ時代に比べて半減した。より短い期間で方式が変わっても、非難されにくくなっている。

第5世代移動通信方式（5G）の存在も圧力として用いて、ほとんどの事業をネットで実行するという考え方もあるだろう。

このような、将来の地上波のユースケース（利用例）を検討する。そして機能要求をするといった作業が必要となる。古典的な放送の姿を離れて、考えることが求められる。

この時、放送塔は電波利用との根幹があるだけに、一斉同報機能自体も選択肢の1つとしてよいかもしれない。電波を使ったアプリケーションの1つに放送があるという

# 謹んで新年のお慶びを申し上げます

平成31年新年


Break time
企画・制作・撮影・編集
ブレイク・タイム
〒241-0822 横浜市旭区さちが丘七五―一 リバーサイドシオン一階
電話（〇四五）三六二―八二九六
FAX（〇四五）三六二―〇〇一四

放送業務撮影機器レンタル
HIBINO
ヒビノベスコ株式会社
代表取締役 中島 義人
東京都江東区東雲2-9-23
TEL 03-6457-2371
FAX 03-6457-2373
http://www.besco.co.jp

VIDEO Service CO.,LTD.
Broadcast & Digital Cinema Equipments Rental Service
代表取締役社長 松岡 美樹
株式会社 ビデオサービス
〒108-0074 東京都港区高輪 2-1-24
TEL 03-3446-8881 FAX 03-3446-8488
HP www.videoservice.tv

JPPA
一般社団法人 日本ポストプロダクション協会
会長 三上 信一
副会長 広岡 淳
副会長 松島 洋
専務理事 鈴木 仁行之

ENTERTAINMENT LIGHTING SPECIALIST
株式会社 東京舞台照明
代表取締役 柳瀬 敏実
〒135-0015 東京都江東区千石１丁目 14-21
TEL03-5653-5430
www.tokyobs.co.jp



代表取締役社長
三雲 薫
mikumo kaoru
TOTAL MEDIA PRODUCE
テレビ朝日グループ
株式会社文化工房
〒106-0032 東京都港区六本木5-10-31
TEL03-5770-7111 FAX 03-5770-7103

フジテレビ
のびのびとした年にしよう。
Happy! 2019!!


Video mix babo
studio ENDEAVOUR
代表取締役 中野 亨
株式会社ビデオミックス・ラボ
〒105-0004 東京都港区新橋3-4-5
新橋フロンティアビルディング
TEL：03-3501-2321
FAX：03-3501-2039
スタジオ エンデバー事業部
TEL：03-3501-2311
FAX：03-3501-2020
http://www.studio-endeavour.com

株式会社 ハーフ エイチ・ピー スタジオ
代表取締役社長
南 沢 道 義
〒151-0063
東京都渋谷区富ヶ谷1-3-4
BOF2代々木公園
TEL | 03-3485-7778（代表）
FAX | 03-3485-7779
www.half-hp.co.jp

株式会社 日放
代表取締役社長 栗田 晋作
151―0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷三―三二―一
電話（〇三）三四〇二―九四九一（代）

映像技術のプロフェッショナル
東通
www.totsu.com
代表取締役社長
星野 誠
株式会社 東通
〒107-6109
東京都港区赤坂５丁目２番20号
赤坂パークビル９階
tel. 03-3585-0700 代表

FOR-A®
INNOVATIONS IN VIDEO and AUDIO TECHNOLOGY
代表取締役社長
清原 克明
株式会社 朋栄
東京都渋谷区恵比寿 3-8-1
TEL：03-3446-3121
www.for-a.co.jp

FUJIFILM
株式会社 富士フイルムメディアクレスト
代表取締役社長 塩入 威男
〒205-0023 東京都羽村市神明台 ニノ一〇ノ八
（〇四二）五三〇―七六〇〇
CD・DVD
各種プロテクトのご用命は

音と映像のプレゼンテーター
HIBINO
THE SOUND & VISUAL SPECIALISTS
ヒビノ株式会社
代表取締役社長 日比野 晃久
〒108-0075 東京都港区港南3-5-14
TEL:03-3740-4391
https://www.hibino.co.jp/
東証JASDAQ（スタンダード）証券コード:2469

harmonic
ゼネラル・マネージャー 田代 陽介
Harmonic Japan 合同会社
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-7-6
茅場町スクエアビル 5F
TEL: 03 5614 0522 代表
FAX: 03 5614 0523
www.harmonicinc.com

NICCABI Rack System
ニッキャビ株式会社
代表取締役 社長 寺林 英明
〒211-0051
川崎市中原区宮内2-5-8
TEL(044)766-2111
FAX(044)777-9000

学校法人 東放学園
理事長 斉藤 晃
東放学園専門学校
東放学園映画専門学校
東放学園音響専門学校
専門学校 東京アナウンス学院
東放学園高等専修学校
▼求人総合窓口
キャリアサポートセンター
〒151-0071 東京都渋谷区本町3-40-6
TEL.0120-375-099 FAX.0120-375-033
https://career.tohogakuen.ac.jp/

NOUVELLE MÉDIAS
代表取締役社長 久野 智嗣 Tomotsugu Kuno
NOUVELLE ÂGE
代表取締役社長 成田 尚広 Naohiro Narita
3MIM
代表取締役社長 久野 智嗣 Tomotsugu Kuno
「ミタコトナイ！」を創像する。
NOUVELLE VAGUE
代表取締役社長 三井 隆裕 Takahiro Mitsui
NOUVELLE VAGUE COMPANY
代表取締役社長 久野 智嗣 Tomotsugu Kuno
株式会社ヌーベルバーグカンパニー
株式会社ヌーベルバーグ
ヌーベルメディア株式会社
3MIM 株式会社（サードミーム株式会社）
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-6 日テレ四番町ビル１号館 5F
◆NVC TEL 03-3288-4851/FAX03-3263-3585 https://nvc-hd.co.jp/
◆NV TEL 03-3288-4351/FAX 03-3288-4355 https://nouv.co.jp/
◆NM TEL 03-3234-6601/FAX 03-3234-6602 https://nouv-medias.co.jp/
◆3MIM TEL 03-3288-4891/FAX 03-3234-6602 https://www.3mim.jp
ヌーベルアージュ株式会社
〒105-0004 東京都港区新橋 2-20-15 新橋駅前ビル１号館 3F
TEL 03-3569-2855/FAX 03-3569-2877
https://nouv-age.co.jp/

パナソニック映像株式会社
Panasonic Visuals Co., Ltd.
代表取締役社長 宮城 邦彦
■大阪本社 〒534-0024 大阪市都島区東野田町 2-4-20 三井住友銀行京阪京橋ビル 8F TEL:06-6882-4478
■東京制作センター 〒140-0002 東京都品川区東品川 1-3-12 TEL:03-3450-7881
https://panasonic.co.jp/cns/pvi/

一般社団法人 日本映画テレビ技術協会
会長 迫本 淳一
副会長 北出 継哉
103-0027 東京都中央区日本橋一―一七―一二 日本橋ビルディング二階
電話（〇三）五二五五―六二〇一

TFC 東北新社
株式会社 東北新社
代表取締役社長 植村 徹
〒107-8460
本社／東京都港区赤坂 4-8-10
TEL.03-5414-0211(代表)
http://www.tfc.co.jp

Visual Graphics Inc.
代表取締役社長 清原 康弘
www.vgi.co.jp
〒150-0013 東京都 渋谷区 恵比寿 3-1-7 タマビル恵比寿2階

JCTA
一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟
理事長 吉崎 正弘
〒104 0031 東京都中央区京橋一―十二―五 京橋YSビル四階
電話 〇三―三五六六―八二〇〇
FAX 〇三―三五六六―八二〇一
URL http://www.catv-jcta.jp

STUDIO NAO
株式会社ナオ
代表取締役社長 久貝 直弘
〒107-0052 東京都港区赤坂7-7-4 赤坂セブンビル
TEL:03-3505-1451 FAX:03-3505-1455
studio-nao.com

# 展望2019

## 高精細化がさらに進展

# ディスプレー業界の動向

## 国産有機ＥＬで期待のＪＯＬＥＤ
## マイクロＬＥＤ技術にも注目

ディスプレーは、テレビやPC、スマートフォンからデジタルサイネージ、街頭大型ビジョン、展示会・イベントでの映像演出まで幅広い市場で拡大が続いている。４K・８Kなどに対応した高精細化や高画質化の技術開発は、とどまるところを知らない。ディスプレーの動向を探った。（杉山平和・ディスプレー評論家）

国内のディスプレー業界で最も注目されるのが、国産液晶ディスプレーメーカーのジャパンディスプレイ（ＪＤＩ）の動向だ。

ＪＤＩの２０１９年３月期第２四半期（18年7―9月）の連結売上高は、１１１０億円で前年同期比40・1％減と大幅な減収に終わり、先行きが不透明で経営再建中と伝えられる。これは第２四半期中の売上計上を見込んでいた米アップルなど主力取引先向け製品の納入が、第３四半期以降にずれ込んだのが減収要因としている。

一方、利益面は18年３月期に実施した構造改革がある程度成功し、赤字幅は縮小した。しかし、19年３月期（通期）の売上高予想は従来の前年度比10―20％増から5―15％増に下方修正している。

ＪＤＩの筆頭株主である産業革新投資機構の田中正明社長らの経営陣と同機構を管轄する経済産業省との対立が解けず、昨年12月10日に田中社長を含む大半の取締役は辞任を発表している。

日の丸ファンドとも言われたこの産業革新投資機構が、今年どうなっていくのかが最大の焦点となる。機構の動向次第で、ＪＤＩにとって大きな転機になりそうだ。



JOLEDの印刷方式の有機ELを利用した医療用モニター

### ◆印刷製造技術

そのＪＤＩの子会社のＪＯＬＥＤでは、印刷方式の有機ＥＬディスプレーを生産している。ＪＯＬＥＤは、さまざまな用途での活用が期待される中型・高精細の有機ＥＬディスプレーを、リジッドパネル、フレキシブルパネルなどでの生産を実施しており、医療用や放送用モニターなど高額販売価格が期待される市場に向けて出荷を開始している。

同社は、昨年12月に千葉市の幕張メッセで開かれた展示会で55型の大型４K有機ＥＬディスプレーを参考展示し、中型のみならず大型の製造にも適した印刷製造技術をアピールした。

現在、40型以上の大型の有機ＥＬディスプレーの市場は、韓国のＬＧディスプレー（ＬＧＤ）の独占状態にある。今年、高級テレビとして国内で販売が好調だったパナソニックやソニーの大画面有機ＥＬテレビも、有機ＥＬパネルはＬＧＤ製品を使用している。これが今年、ＪＯＬＥＤの参入によって市場に変化が起こるかどうかが一番の注目点となるだろう。

ＪＯＬＥＤとしては各テレビメーカーと協力し、そのテレビメーカーのブランドとして有機ＥＬパネルを製造してもらいたいという意向があるようだ。

本来、印刷方式の有機ＥＬは、テレビなどの大型パネルに向いた生産技術であると言われていたほか、アップルのiPhone、ソニーのエクスペリアなどの上位シリーズの一部スマホにＳＤＩ製の有機ＥＬが使われている。

シャープの親会社である台湾・ホンハイのグループ会社フォックスコンでは、iPhoneなどの生産もしているが、有機ＥＬでこの市場は魅力的であろう。ホンハイでは有機ＥＬの量産体制の確立を目指している。

### ◆超高精細ＬＥＤ

大型映像用のディスプレーでは、高精細化、低価格化が進むＬＥＤディスプレーの市場が注目される。現在はパイロットラインを中心とした、主に自社のスマホ向けに限られた小ロットでの生産であるが、この有機ＥＬディスプレーを日本市場に初めて紹介したのは、米シリコンコア・テクノロジー（シリコンコア）の日本法人代表・梅村誠氏である。

シリコンコアの発表以降、中国メーカーを中心として１㍉ピッチ台のＬＥＤディスプレーも発売されるに至っており、どこまで高精細化が進むのかは、技術開発という点からも関心が高まる。梅村氏は「技術的には０・５㍉ピッチ以下のＬＥＤディスプレーも実現は可能だろう。ただしピッチが細かくなればなるほど価格は高額になり、さらに同じ４Kディスプレーでも画面が小さくなってしまう。ユーザーのニーズがどこまであるかだ」という。


ソニーのクリスタルLEDディスプレー

### ◆マイクロＬＥＤ技術

一方、ソニーやサムスンなどが開発や販売をした「マイクロＬＥＤ」技術を応用するＬＥＤディスプレーでは、さらなる超高精細化に向けての技術開発が進んでいる。

２０１４年に青色ＬＥＤの開発でノーベル物理学賞を受賞した名古屋大学教授で未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積研究センター長の天野浩氏が現在、ディスプレー関連で最も熱心に技術開発に取り組んでいるのが、マイクロＬＥＤを含む次世代ＧａＮナノロッドＬＥＤディスプレーだという。

天野氏は「ＬＥＤでスマホやテレビの画面を作ることが次の目標」と語っている。アップルも次世代iPhoneの主力ディスプレー候補としてマイクロＬＥＤの本格量産を目指している。

天野氏は「現在のマイクロＬＥＤは、ソニーのクリスタルＬＥＤのようなデジタルサイネージ向けの製品化であるが、将来的にはさまざまなディスプレーの用途として発展する可能性がある。そのために、さらなるマイクロ化やコスト削減を目指して研究開発をしている」という。

ソニーのクリスタルＬＥＤの現行製品は１・２㍉ピッチであるが、今後技術開発が進んでいけば、さらなる狭ピッチの製品が出てくる可能性がある。

韓国・サムスンもマイクロＬＥＤ技術を使った大型映像装置の開発を進めており、今年はこのサムスンの製品がどこまで進化していくかも注目される。

最終的な目標はあくまでもスマホ向けではあるが、大型映像市場でマイクロＬＥＤ技術を使った次世代ディスプレーの展開に期待したい。


# 謹んで新年のお慶びを申し上げます

平成31年新年




LUDENS CG & VISUAL CREATION
株式会社ルーデンス
代表取締役
増尾隆幸
〒151-0064
東京都渋谷区上原2-43-7
コンフォート上原2F
tel:03-5452-0051
fax:03-5452-0052
www.ludens.co.jp

Leader
代表取締役社長
長尾 行造
リーダー電子株式会社
〒223-8505
神奈川県横浜市港北区綱島東2-6-33
Tel 045-541-2121
Fax 045-541-2120
www.leader.co.jp

株式会社 都通信
代表取締役
都甲貴之
〒531-0072
大阪市北区豊崎5丁目2番13号
TEL06−6377−0385
FAX06−6377−0088
全国どこでも施工はお任せください。
詳しくはこちら
http://www.miyakotsushin.com

MIHARU
ミハル通信株式会社
代表取締役社長
中村俊一
〒247−8538
神奈川県鎌倉市岩瀬二二八五
電話（〇四六七）四四一九一一一
FAX（〇四六七）四六一一六一一五
かまくらNOW!

Mitomo
DESIGN YOUR PICTURE
三友株式会社
代表取締役社長
藤森基成
〒141-0022
東京都品川区東五反田1-2-33
白雉子ビル9F
TEL 03-6408-1450
FAX 03-3440-7755
www.mitomo.co.jp

# 展望2019

2019年は、翌年の東京オリンピック・パラリンピック（東京五輪）に向けてのPRやラグビーW杯開催などで、スポーツ関連イベントの増加が期待される。音楽業界でもライブツアーでは、大型映像による演出が定着している。そうしたイベントにおいて、LEDディスプレーを中心とした大型映像機器の需要は年々拡大しており、今年の大型映像業界は昨年以上に活況を呈するだろう。プロジェクションマッピングも常設や長期の屋内での活用が増えていくことが予想される。

（川田宏之）

## 需要が拡大する大型映像業界

### スポーツ、音楽イベントで活躍

### 4K・8Kの高精細化に対応

●五輪向け製品生産

東京五輪のトップスポンサーはパナソニックであるが、同社は東京五輪開催に向けて、国内の製造拠点で大型LEDディスプレーの生産を開始している。大型LEDディスプレーといえば、昨今は中国製が市場を席巻しているが、パナソニックではメインスタジアムをはじめ、東京五輪会場で使用する多くの大型LEDディスプレーに、国内自社製造製品で対応する方針である。

既にヒビノでは、一昨年からパナソニック製8ミリピッチLEDを搭載したRIGGING MOVER MINI（リギングムーバーミニ）を運用している。

光和と東和エンジニアリングが共同で設立した映像機器レンタル会社のKOTOでも、パナソニック製のLEDやプロジェクターを中心に大型映像製品のラインアップを整えている。

大型LEDディスプレーをレンタル用として多数運用するエルテックでは、昨年末、4KとHDRに対応した高精細LEDディスプレー1000平方メートルを新規に導入した。

ソニーPCLでは、昨年の春に8Kに対応したソニー製クリスタルLEDを導入。このクリスタルLEDは、年末のNHK紅白歌合戦などのパブリックビューイングでも利用された。

昨年12月に新4K8K衛星放送が開始され、高精細映像が増える中にあって、大型LEDでもさらに4Kや8Kなどの高精細映像に対応したディスプレーの導入は進んでいくだろう。



ヒビノが所有するパナソニック製8ミリピッチLEDを搭載した車載型大型映像「RIGGING MOVER MINI」

●AIサイネージが普及

デジタルサイネージ（サイネージ）では、AI（人工知能）を使ったAIサイネージが普及していくものとみられる。

昨年春にオープンした広島市にあるイオン系列のアウトレットモールでは、ピーディーシー（PDC）製のAIサイネージが導入された。記者が取材した当時は、プレオープンの初日だったこともあり、AIはまだ学習不足の面も見られたが、既にオープンから半年以上経った現在ではAIも多くの人に利用されて学習を重ねていることであろう。

ローソンが昨年のCEATEC JAPANで提案した「未来のコンビニ」でも、このAIサイネージが活躍した。このようなAIサイネージが今年はさらに活躍が期待される。

●マッピングの利用拡大

近年、イベントなどでの活用が増加しているマッピングは、国土交通省による屋外広告の規制緩和のガイドラインが昨年発表されたことを受けて、今年は屋外での大規模な上映が増えていくことが期待される。

さらにそれ以上に増えることが予想されるのは、常設や長期の屋内のマッピングである。屋内のマッピングは、既にデジタルアートとして定着しており、チームラボやネイキッドなどが関連するイベントなどでは多くの来場者がある。

また、企業のロビーなどで展開されるマッピングは、新宿のエプソン販売本社（タケナカがコンテンツなどを制作）に代表されるように、企業のイメージアップに一役買っている。このような屋内型マッピングの市場が広がっていくことだろう。


東京・新宿のエプソン販売の本社では、エレベーターホールに常設されたマッピングが来訪者を出迎える

●震災時での稼働対策

日本漢字能力検定協会が発表する「今年の漢字」に「災」が選ばれたように、昨年は地震や大雨、台風などの大規模な災害が多い年でもあった。そうした災害時に大型映像システムの活躍も期待されている。

街頭大型ビジョン事業者で構成される日本パブリックビューイング協会の星野睦郎代表理事は、次のように語っている。

「2011年の東日本大震災発生時にも議論されたが、昨年9月の北海道胆振（いぶり）東部地震の際には、停電で大型ビジョンが使用できなくなり、非常時用蓄電池設備の設置が大切なことを改めて実感した。非常電源の蓄電池設備は非常に高価である点も課題である。ここは行政の協力も必要になるだろう。地道に話し合いや働きかけなどの努力を続けていきたい」

「インバウンドで来日している外国人旅行者に、いざというときに分かりやすく的確な情報を提供することは、大型ビジョンの社会的使命と考える。台風の被害を受けた関西国際空港では、何も情報がなく困ったという話を聞いているが、主要な駅などを含めたターミナルでの情報提供は重要」

「これらの反省をかてとして、駅などターミナルのデジタルサイネージなどを取りまとめる団体などとも協議を密にし、いざという時にも役立つ社会的意義のある大型ビジョンとなることを目指してきたい」

このように監視制御システムも含めて、災害対応が大型映像業界には大きなテーマとなることだろう。

## サイネージにはAI導入 常設のマッピングも増加へ


Visual Research Inc.

VRi は、ファイルベースでレンダリングを必要としない
テロップ作業環境を提供します

リアルタイム 3D キャラクタージェネレータ
KarismaCG

マルチコーデックデジタル録画再生機
Karisma D-Stream




Visual Research Inc.（VRI）日本総代理店　ジャパンマテリアル株式会社　東京都新宿区西新宿 6-12-1 パークウェスト 8F　TEL 03-5323-0820　http://www.jmgs.jp

# 地上波TVに新潮流

2018年の地上波テレビ界には重要な流れが3つあった。1つは、地上波テレビのビジネスモデルに地殻変動が起き始めている点。2つ目は、その対応に向けてメディアの指標が進化を始めていることだ。そして3つ目は、具体的に動き始めたテレビ局が出ている点である。本紙の放送、メーカー、通信の担当記者が18年のメディア界を振り返り、19年の地上波テレビの新たな潮流について掘り下げる。

## 本紙記者座談会

# 変わるメディア指標

## ネット接続TVの可能性

### ★テレビ広告費の減少

**A（放送担当）** 18年の放送界で最も気になるのは、テレビ広告費の減少傾向が明確になっている点だ。17年にキー5局の広告収入が、前年比ですべてマイナスとなった。そして18年は残念ながらその傾向が回復せず、今後も続く可能性が高いことが見えてきた。

**B（メーカー担当）** そもそもテレビの出荷量が12年以降7年連続で低迷している。18年も500万台に届きそうにない。テレビが売れないのは地上波テレビの視聴時間が減っているからだろうか。

**C（通信担当）** スポンサーの意識の変化も大きいと思う。ネット広告は長年、2けたの伸びを続けている。広告効果を数字で示せる点が、大きなけん引力となってきた。これに対してテレビ広告は従来の強みが逆に弱みになり始めている。

**A** リーチという点で地上波テレビはどのメディアより圧倒的な力をもっているのは今も変わらない。このパワーで広告費は2兆円にまで拡大してきた。しかし、大勢にリーチしても、どれだけ人の心を動かし、購買行動につながったのかが見えないため、ここ最近は割高とみる広告主が増えてしまった。このことが最大の課題といえそうだ。

**C** ネットの場合、バナー広告などのクリック率が明確に出る。どのサイトにどんな広告を打つと、コンバージョンや購入がどれだけ発生したのかがすべて分かる。思った通りの成果が上がっていない場合、短時間で次の方策も打てる。このスピード感の違いは大きい。

### ★視聴実態が変化

**B** 広告効果という意味では、視聴実態の変化も放置できない状況ではないか。

**A** ビデオリサーチの関東地区視聴率調査では、男女50歳以上からなる3層が占める比率が、この10年で56%から63%と急増した。逆に若年層は5%ほど下がっている。これは実際の年齢構成と比べ、極端に高齢化が進んでいることを意味する。〝若者のテレビ離れ〟はかなり明確になってきた。

**C** これでは広告主も、リーチしたい若年層に届きにくいテレビ広告を選択しにくくなっている。長時間スマホを使う彼らをつかまえるには、ネット広告を選択せざるを得ないわけだ。

## 情報消費と行動の関係分析可能に

**A** しかも視聴者の高齢化が急速に進んだために、テレビ局は中高年をターゲットとした番組へとシフトしている。例えばこの秋のGP帯（午後7―11時）放送の民放ドラマは、主人公の平均が53・2歳だった。5年前の秋ドラマでは40・8歳。10年前までは軒並み30代前半だった。

**B** 直近の10年で20歳ほど主人公の平均年齢は上がったということなのか。

**A** そのとおりだ。視聴率1位の『相棒』は、水谷豊が66歳。2位『リーガルV』の米倉涼子は43歳。3位『下町ロケット』の阿部寛が54歳だった。しかも4位も5位も主人公は50代。トレンディドラマの時代は、主人公が20―30代のドラマが高視聴率だったが、今や隔世の感がある。

**B** これでは、若者はテレビが自分たちのメディアとは思えないだろう。〝若者のテレビ離れ〟はテレビ局の方針が加速させてきた一面もある。

### ★個人視聴率基準に

**C** 18年はテレビの指標が大きく変わり始めた1年だった。例えばスポットCMの取引には、録画再生視聴を加算するが、個人視聴率を基本とするようになった。いわゆる「個人ALL、P+C7」というものだ。

**A** さらに流通との商談用に、テレビとデジタルでの〝共通指標〟も導入しようとしている。ネット広告を、もはや無視できないというのが業界の現実だ。

**B** しかし「個人ALL、P+C7」は結局、測定する量の対象が変わっただけで、すぐに広告効果が明確になるわけではないだろう。

**A** だから広告効果を説明するための努力も始まっている。

**C** 例えばITベンチャーが、テレビの前に何人いるのか、彼らの視線は画面にあるのか、といったことを測定し始めている。

**A** いわゆる集中度を測定することで広告効果を表現する動きだ。スポンサーの中には、自社CMにどれだけ目を向けてもらえているかを測定し、どこに出稿するか、CMのクリエイティブをどうするかを検討する社も出てきている。

**B** デジタルの世界では、位置情報を活用したマーケティングも始まっている。例えばネット上で広告を見た人が、どれだけ実際に来店したのかを測定する手法だ。これをテレビに応用すれば、テレビCMの広告効果が数字で出せるようになる。

### ★リモコンログ収集

**B** でもそれは、テレビがネットにつながっていることが前提だ。特定のCMを試聴した場合、そのテレビと同じネットIDを使うスマホがどれだけ来店しているかという位置情報を使うやり方だ。つまりテレビもネット接続することで、一挙にマーケティングの可能性を広げている。

**A** 今やそうしたテレビは200万台ほどになっている。リモコンの操作ログを収集できるので、デジタルと同様に詳細な分析が可能になる。

**B** 例えば地上波を見ていた人が、どのタイミングでBSに移ったのかなども、数百数千単位で補足できる。またテレビからネット上での行動の関連性も、ログで追える時代もくる。つまり情報消費と実際の行動の関係分析が可能になる。テレビが一定以上の説明責任を果たせる時代が来るというわけだ。

**A** 既にかなりのことが分かるようになっている。同じ全国放送の番組が、東京とA県B県で見られる方がどれだけ違うかは把握できる。災害時だと、市町村単位でニュースの見られ方に大きな差ができる。つまりテレビの見られ方から、被害状況の大きさなども推定できる時代になるということだ。

**C** ならばテレビCMの作り方も、エリアごとの特性に合わせて作り変えた方が、より多くの人に刺さるようになるのでは。デジタルでのABテストのように、テレビCMも複数のクリエイティブを試し、視聴実態から改善すれば良いわけだ。かなりデジタルの世界に近づいてくる。

### ★動き始めたテレビ局

**B** テレビ局はどう対応しようとしているのか。

**A** テレビ東京は番組の海外販売を加速させ、ライツビジネスの比重を急速に高めている。14年までは、全収入に占める割合を、3年で10%も高めている。同局は広告収入だけでは赤字だが、ライツビジネスで黒字に転換している。

日テレは視聴率で苦戦した1年だったが、広告収入ではプラスを維持している。また日テレは世帯視聴率からコアターゲットの個人視聴率を重視する方針に変えているから、広告主からの評価が高い。しかも長年続けて来たタイムとスポットの広告取引のあり方を見直し始めてもいる。広告単価上昇に最も力を入れている局で、経営の側面から見て最も安定している。

**B** 地方局も変わり始めている。地元のラジオ局やCATV、さらにはネットも活用して存在感を増している局がある。二次利用などで増収を図る局も出てきた。90年代に北海道テレビが始めた『水曜どうでしょう』には及ばないものの、新たに制作したローカル番組から、エリア外での増収に成功する局も登場し始めている。

**A** テレビ局が最も得意とする番組を起点に、新たな収入を創り出す努力は始まっている。

**B** ビジネスモデルは、少しずつだが着実に変わってきているわけだ。

**C** 06年に「通信放送融合」の議論が盛んになって10年。いよいよ経営の根本部分の見直しが始まった。どうやらネットにつながるテレビのログと、ネット行動のログ、さらには購買行動などのデータが結び付き、より合理的なマーケティングへと業界は走り出している。

**A** 放送もいよいよデータドリブンになろうとし始めている。今回は18年に話題となった新4K8K衛星放送や、NHKの常時同時配信に触れなかったが、業界全体で見た場合、それどころじゃないという雰囲気だ。19年はDDM（データ・ドリブン・マーケティング）に向かい、変化が加速する1年になりそうだ。


# 謹んで新年のお慶びを申し上げます

平成31年新年

NABSHOW Where Content Comes to Life™
NAB日本代表事務所
info@nabshow.jp

一般社団法人
全国地域映像団体協議会
名誉会長 信井文夫
理事長 遠藤誠
副理事長 吉田幸弘
副理事長 岩月雅章
＜本部事務局＞（東北映像製作社協会内）
〒980-0014
仙台市青葉区本町2丁目12-2(株)クリエイティヴスタッフ内
TEL 022-221-5281
FAX 022-221-5329
URL http://www.zeneikyo.jp
＜東京連絡事務所＞
〒112-0006
東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル
TEL 03-3942-2161
FAX 03-3942-2581

株式会社 新聞センター
社代表取締役長 雨宮勝
〒131-0033 東京都墨田区向島三丁目一番三号
電話 〇三（三六二二）〇五〇八番
FAX 〇三（三六二六）六二三六番

見るほどに、新しい出会い。
WOWOW
代表取締役社長 田中晃
株式会社WOWOW
〒107-6121 東京都港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル21F
☎03 (4330) 8111

Roland
ローランド株式会社
〒101-0041
東京都千代田区神田須田町2-7 VORT秋葉原ビル8F
TEL：03-3251-5071（東京）
TEL：06-6233-6891（大阪）
URL：http://proav-jp.roland.com

Ray
代表取締役社長
分部至郎
Shiro Wakebe
株式会社 レイ
〒106-0031
東京都港区西麻布3-2-30 Rayビル
tel：03-5410-6130
fax：03-5410-6131
http://www.mcray.co.jp/

isle INT'L SIGNS & LED EXHIBITION, GUANGZHOU
INT'L COMMERCIAL DISPLAY TECHNOLOGY & APPLICATION EXHIBITION, GUANGZHOU

# 世界最大級の大型 LED ディスプレイの専門展示会

# ISLE2019

# International Signs & LED Exhibition

## 世界の大型映像最新製品がここに勢ぞろいする

## ISLE2019 視察ツアーのご案内

**ISLE2019 視察ツアーの内容**

日程 :2019 年**3** 月 **3** 日㈰～**8** 日㈮ (**5** 泊 **6** 日 )

視察地 : 中国 広州、深圳、マカオ

広州 :「ISLE 2019」展視察 /2 泊

深圳 : LED 関連企業 2 社訪問視察 ( 訪問企業は現在交渉中 )/1 泊

マカオ : 大型 LED、IR を見学 /2 泊

●参加メリット

・映像新聞記者が同行・広州初日に映像新聞川田記者より ISLE2019 の見所など解説・ツアー同行で見所解説

・IR( 統合型リゾート ) 開発最先端のマカオで、大型 LED 動向を視察

・ツアー終了後に視察レポートを送付




**ISLE(International Signs & LED Exhibition)**

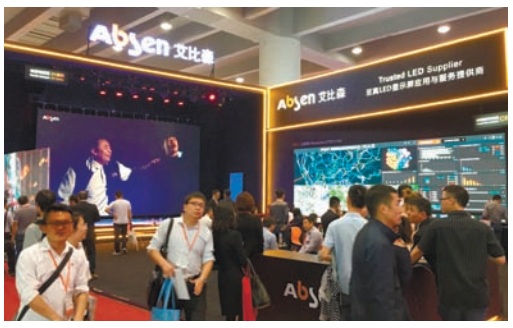
**中国最大級の LED ディスプレイ展示会**

開催 :2019 年 3 月 3 日 ( 日 )~6 日 ( 水 )

場所 : 中国 広州市 Area B Canton Fair Complex

出展スペース :120,000m²

出展社数 1,800 社以上 ビジター :238,000 名






| | 月日 (曜) | 地　名 | 現地時間 | 交通機関 | スケジュール | 食　事 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2019 年 3 月 3 日 ( 日 ) | 東京<br>東京 ( 羽田 ) 発<br><br>広州着 | <br>09:25<br><br>13:50<br>夕刻 | <br>NH<br>又は JL<br>専用車<br>徒歩 | 羽田空港集合<br>空路、広州へ<br>【所要 :4 時間 45 分　時差 :ー1 時間】<br>着後、ホテルへ<br>映像新聞 川田氏セミナー<br>「ISLE2019 見どころ ( ほか )」開催<br>その後懇親会<br>＜広州　泊＞ | 機内食<br>1 回<br><br>夕食 :○ |
| 2 | 3 月 4 日 ( 月 ) | 広州 | 終日 | 専用車 | ISLE2019 視察<br>＜広州　泊＞ | 朝食 :○<br>昼食 :×<br>夕食 :× |
| 3 | 3 月 5 日 ( 火 ) | 広州<br>広州発<br><br>深圳着 | 朝<br>午後<br><br>夕刻 | 専用車<br>専用車 | ISLE2019 視察<br>ISLE2019 会場発、深圳へ<br>【所要 : 約 2 時間 30 分】<br>＜深圳　泊＞ | 朝食 :○<br>昼食 :×<br><br>夕食 :× |
| 4 | 3 月 6 日 ( 水 ) | 深圳<br><br>深圳 ( 蛇口 )<br>マカオ着 | 午前<br>午後<br>午後<br>夕刻 | 専用車<br><br>フェリー<br>専用車 | 企業視察①※LED メーカー<br>企業視察②※LED メーカー<br>その後、マカオへ【所要 : 約 1 時間】<br>着後、ホテルへ<br>※各自、LED・IR 施設ほか視察<br>＜マカオ　泊＞ | 朝食 :○<br>昼食 :×<br><br>夕食 :× |
| 5 | 3 月 7 日 ( 木 ) | マカオ | 終日 | | 終日、自由行動<br>※IR 施設の現地視察ほか<br>＜マカオ　泊＞ | 朝食 :○<br>昼食 :×<br>夕食 :× |
| 6 | 3 月 8 日 ( 金 ) | マカオ<br><br>香港空港着<br>香港発<br><br>東京 ( 羽田 ) 着 | 午前<br><br>午後<br>14:00～16:00<br><br>19:00～21:00 | 専用車<br><br>NH<br>又は JL | 朝食後、2018 年 10 月に開通したばかりの「港珠澳大橋」利用にて香港空港へ<br><br>空路、日本へ<br>【所要 :4 時間 15 分　時差 :ー1 時間】<br>お疲れ様でした。 | 朝食 :○<br><br>昼食 :× |

[ 利用航空会社 ] 全日本空輸 (NH) 又は日本航空 (JL)

ご注意 : この行程は 2018 年 11 月 1 日現在の運行スケジュールを基準としております。

●時間帯の目安

| 早朝 | 朝 | 午前 | 午後 | 夕刻 | 夜 | 深夜 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 04:00 | 06:00 | 08:00 | 12:00 | 16:00 | 18:00 | 23:00 04:00 |

●**ご旅行代金** : 大人お一人様　**328,000 円**

※国内航空施設使用料 (2,570 円 )、海外空港諸税 ( 概算 5,000 円 )、燃油サーチャージ ( 目安 7,000 円 )、国際観光旅客税は含まれません。( いづれも 2018 年 11 月 1 日現在 )

●**ビジネスクラス利用追加代金**：お問い合わせください

●**1 人部屋利用追加料金**:72,000 円 ( お 1 人様・5 泊分 )

●**日本発着時利用航空会社**：全日本空輸 (NH)※エコノミークラス

●**利用ホテル**：〈広州〉ウェスティン広州
（ツイン 2 名 1 室利用）〈深圳〉シャングリ・ラ ホテル 深圳
〈マカオ〉ホテルオークラ マカオ
※大型 IR 施設「ギャラクシー」のホテルにご滞在頂きます。

●**食事条件**：朝食 5 回・昼食 0 回・夕食 1 回 ※機内食は含みません

●**添乗員**：全行程同行いたします。

●**募集人員**：30 名様 ( 定員になり次第締切らせていただきます。)

●**最少催行人員**：15 名様

●**申込締切：2019 年 1 月 11 日 ( 金 )**

※本ツアーに関する情報は以下の URL からもご覧いたたげます。
http://reg.lapita.jp/public/seminar/view/291

**企画主催：映像新聞社**

**協力 : マネッジ・オンライン**

お問い合わせお申し込みは
**旅行主催 株式会社 JTB**
新宿第二事業部　営業第二課
〒163-0426 東京都新宿区西新宿
2-1-1 新宿三井ビル 26 階

**TEL　03-5909-8102**
**FAX　03-5909-8110**
営業時間 /09：30 ～ 17：30
・土日祝日休業

総合旅行業務取扱管理者 : 伊藤 芳徳
担　当 : 宮本 家治

観光庁長官登録旅行業第 64 号
日本旅行業協会正会員

## J：COMが4K放送に関する調査

# 約7割が「見てみたい」と回答

## 「視聴できる状態にある」は6・6％

ジュピターテレコム（J：COM）は、昨年12月1日のBS・110度CSによる4K放送開始を前に、全国の20―60代男女2062人を対象に「4Kに関する調査」を10月31日―11月1日に実施した。同社は、J：COM TVスタンダードプラス／スタンダード／セレクトの各サービスにおいて4K放送を開始。その4K放送のスタートに合わせ、どれだけ正しく情報を認知し、準備できているのかについて調べた。

《4K放送を自宅で見てみたいか》（対象＝4Kテレビ認知者1991人）の問いには、68・3％が「見てみたい」と回答し、関心が高いことが分かった。

見てみたいが準備を進めていない理由（複数回答）としては「4K対応テレビが高いから」が56・5％と過半数でトップ。次いで「今のテレビ放送で満足している」が44・4％、「準備の仕方が分からないから」が28・4％という結果が出た。初期費用や手間などが、ハードルとなっているようだ（表1）。

《見たい4Kコンテンツ》（対象＝2062人）としては「4K対応CSで4K放送がスタートすることを知っている》（対象＝4Kテレビ認知者1991人）は、全体の36・4％。4K対応テレビ所有者・非所有者で比較すると、所有者は、4K放送スタートの時期について60・1％が認知していた。

一方、非所有者は34・2％の認知度にとどまり、25・9ポイントと大きな差が出た。

《自宅で4K放送が視聴できる状態にあるか》（対象＝4Kテレビ認知者1991人）の問いでは、「視聴できる状態にある」と答えたのは全体の6・6％。「準備途中、準備する予定」との回答を合わせても12・2％だった。

〈表1〉「自宅で4K放送を見てみたいけど、準備を進めていない理由」（対象：1991人／複数回答）

| No | 項　目 | % |
|---|---|---|
| 1 | 4Kテレビが高いから | 56.5 |
| 2 | 今のテレビ放送で満足しているから | 44.4 |
| 3 | 準備の仕方がわからないから | 28.4 |
| 4 | アンテナや配線の工事が面倒だから | 16.4 |
| 5 | アンテナや配線の工事費用が高いから | 16.1 |
| 6 | あまりテレビ放送を見ないから | 15.5 |
| 7 | 家族の同意を得られていないから | 7.7 |
| 8 | アンテナや配線の工事ができない住居だから | 5.1 |
| 9 | アンテナを設置しても電波を受信できないから | 0.8 |
| - | その他 | 2.9 |

〈表2〉「見たい4Kコンテンツ」（対象：2062人／複数回答）

| No | 項　目 | % |
|---|---|---|
| 1 | 映画（洋画含む） | 53.5 |
| 2 | ドラマ（海外ドラマ含む） | 30.6 |
| 3 | 旅・紀行番組 | 26.3 |
| 4 | 自然風景・動物の映像・番組 | 21.0 |
| 5 | オリンピック | 20.2 |
| 6 | コンサート・ライブ中継 | 15.8 |
| 7 | アニメ・特撮 | 14.6 |
| 8 | 音楽番組（コンサート・ライブ中継除く） | 10.2 |
| 9 | バラエティー | 9.9 |
| 10 | 野球（オリンピックを除く） | 9.1 |
| 11 | サッカー（オリンピックを除く） | 8.5 |
| 12 | ドキュメンタリー | 7.5 |
| 13 | その他スポーツ（オリンピックを除く） | 5.4 |
| 14 | グルメ番組 | 4.6 |
| 15 | 報道（ニュース・ワイドショー） | 3.7 |
| 16 | スポーツニュース・スポーツ情報番組 | 1.9 |
| 17 | ゴルフ（オリンピックを除く） | 1.6 |
| 18 | ラグビー（オリンピックを除く） | 1.2 |
| 19 | その他 | 0.2 |
| - | 特に見たいと思うコンテンツは無い | 10.6 |

一方で「今後検討したい」との回答は、39・7％と、4K放送への関心は高い。

4K対応テレビの所有者（対象＝168人）のうち、48・2％が「4K放送の視聴準備ができている」と回答した。

しかし、4K対応テレビ所有者のうち、4K対応のチューナーおよびアンテナ、宅内配線の準備状況を聞いたところ、実際に視聴できる状態にあるのは18・5％。実態は、4K対応テレビを持っていても、81・5％が4K放送を視聴するための正しい準備ができていないことが分かった。

ちなみに、18年9月の調査で《誰とテレビを見ているか》の質問には、8割以上が「ひとり」と回答しており、実際は多くの人が「ひとり視聴」をしているようだ。

《家に帰ってきてすぐにすること》を聞いたところ、1位「手洗い・うがい」の次に「テレビをつける」がランクイン。また、家の中にないと困るものという問いには、77・8％が「テレビ」を回答し2位だった（1位「冷蔵庫」83・0％、3位「洗濯機」73・5％）。

《1日の生活の中のさまざまなシーンでテレビをつけているかどうか》を調査したところ、特に多かったのは「食事をしているとき」で88・0％。次いで多かったのが「ケータイ、スマートフォンを触っている時」で75・0％。10代は9割以上、20代は8割以上で若い人ほど〝ながらスマホ、ながらテレビ〟が多い。また、朝の準備をしている時は72・3％で50代がやや突出している傾向が見られた。

そのほか「朝起きたらすぐつけることがある」は58・0％、「家事をしながらつけている」は67・0％、「布団に入ってからもつけている」は33・8％となった。

テレビは、〝ながら見、聞きながし〟のツールとして利用されているようだ。

◆☆★☆◆

今回の調査結果により、スカパーは「実際はどの世代においても半数以上が、ほぼ毎日テレビを視聴していた。そしてテレビ視聴のイメージは、『家族団らん』を想起する人が過半数でありながら、実態は1人での視聴が8割以上と、イメージとは乖離（かいり）傾向。『テレビ』という言葉は、家族を連想させるアイテムでありながら、実際のライフスタイルに応じて楽しまれている、なくてはならないアイテムであることが分かった」と分析している。

## 「テレビ離れ」は本当なのか

近年は昔ほど高い視聴率が獲得できず、若い世代を中心に「テレビ離れ」が起こっているのでは、と言われている。しかし、本当に多くの人がテレビを見なくなっているのか――。スカパーJSAT（以下、スカパー）は、昨年12月1日にスタートした「新4K8K衛星放送」に先駆け、テレビ視聴に関するアンケート調査をした。調査は2018年11月13、14日、全国の10代―60代男女を対象にインターネットアンケート（協力会社＝ネットエイジア）を実施。有効回答者数は400人（男女各200人＝各年代でおおむね均等になるように抽出）。以下、調査結果の概要をまとめた。

《日頃どのくらいの頻度でテレビを見ているか》の問いには、81・0％が「ほぼ毎日」と回答。年代別にみると、年齢が上がるほど多くなる傾向がみられ、50代（93・9％）、60代（92・4％）は9割以上が「ほぼ毎日」と回答したが、10代は72・7％、最も低い20代でも62・1％が毎日見ている。

《「テレビを見る」と聞いて、どのようなシーンを思い浮かべるか》を聞いたところ、53・0％が「家族そろってテレビを見ているシーン」と回答。「自分の部屋で1人でテレビを見ているシーン」は3割程度だった。

### スカパーが視聴実態を調査

# 「ほぼ毎日見ている」は81％

## 最低の20代でも62.1％

# 10代の9割が「ながらスマホ」


grass valley A BELDEN BRAND　AIMS Alliance for IP Media Solutions

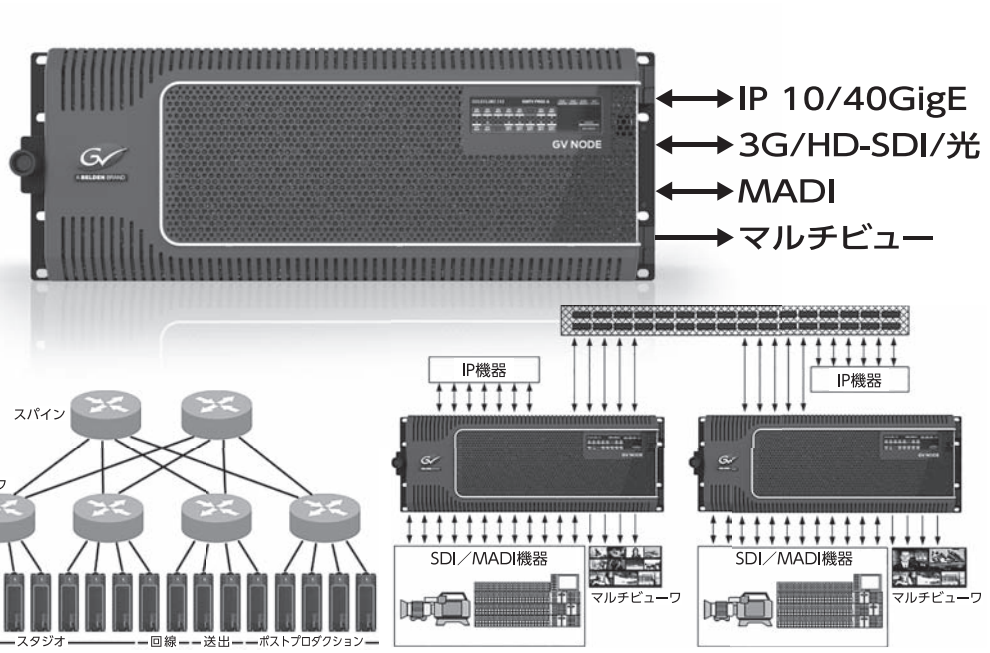
IPベース・ルーティングスイッチャー

GV NODE

■AIMS ロードマップに順次対応

SMPTE 2022-6　AES67　TR-04　TR-03　SMPTE 2110

● IP/3G-SDI/MADI入出力
● 1筐体最大288x288　144x144の3G-SDIと144x144のIP（40GigE x12）
● オーディオDe-MUX/MUXライセンスオプションによりオーディオをシャッフル
● イーサネットスイッチのスパイン/リーフ構造とSDN制御による拡張性と冗長性
● マルチビューワを含む多くのインターフェースボードの混在実装
● ブランキングスイッチおよび最大2.7ラインの低遅延
● 4K用TICOビジュアルロスレス圧縮オプション（クワッドスプリット/2SI）
● 従来のルーティングスイッチャー・コントロールパネルが使用できます




［販売代理店］TOTSU INTERNATIONAL 株式会社 東通インターナショナル　東京都港区東新橋 2-3-3 ルオーゴ汐留 2 階　TEL 03-5860-1910　www.totsu-int.co.jp

## 仏のベンチャー企業6社が来日

# 多彩なＡＲ／ＶＲ技術を披露

## 「フレンチテック」イベント



プレゼンした6社とビジネスフランスのスタッフ

日本のＶＲ（仮想現実）ＡＲ（拡張現実）、ＡＩ（人工知能）市場への参入を目指すフランスのスタートアップ企業6社は2018年11月、都内のＶＲ／ＡＲ特化型インキュベーション施設「FuntureTech Hub」で開かれた報道陣向けイベントで、各社の技術やサービスを披露した。

これは、フランス企業の国際展開を支援するフランス大使館貿易投資庁「ビジネスフランス」が実施する「ジャパン・イノベーション・プログラム」の一環。フランス政府がスタートアップ大国を目指して13年から進める施策「フレンチテック」の1つでもある。

今回はＶＲ、ＡＲ、ＡＩをテーマに、フランス国内の産業クラスターなどが企業を募集。FutureTech Hubや映像産業振興機構（ＶＩＰＯ）、ＧＲＥＥ、ＭＯＧＵＲＡＶＲ、東京大学など日仏の専門家が、技術の可能性や日本進出への意欲が高い7社を選出、内6社が来日した。

Ｈｉｓｔｏｖｅｒｙ（ヒストヴェリー）は、歴史的建造物などで、ＡＲを使って当時の様子や展示品の説明をタブレット端末に映し出すバーチャル観光案内を実演。

「来場者が楽しめるのに加え、施設側は来場者のプロフィールや行動履歴を把握できる」（担当者）という。リナゴラはオープンソース・ソフトウエアと法人向けスマートスピーカーを開発する。

マンザラブは、ＶＲを利用した職業訓練ビデオを制作する。エアバス社からスピンオフしたスカイリアルは、航空宇宙分野を専門とするバーチャル3Ｄモデルの設計や確認のためのプラットフォームを開発する。ゲーム医療ソフトの開発会社も参加した。

### ◆フランス政府がＡＲ／ＶＲを支援

イベントでは、ビジネスフランス上席貿易担当官の林薫子氏がフランスの状況を説明した。

フランスでは現在、「フレンチテック」のブランドの元に政府がスタートアップ企業の振興策を進めており、「ＣＥＳ」をはじめとする展示会への出展や海外進出の後押しをしている。17年の上半期ベンチャー資金調達額は27億ユーロにのぼり、イギリスとドイツを抑え欧州1位となった。

中でもＡＲやＶＲはＩｏＴやバイオ、金融、スポーツなどさまざまな分野にかかわる技術として期待されており、15年の市場規模は7億ユーロ、20年には150－300億ユーロが見込まれる。特にＢ２Ｂでの伸長が期待されている。

林氏は「ＩＴ産業の中心はシリコンバレーだが、フランスは、ロボットのペッパーの開発者をはじめ優れたＩＴ人材も生み出している」としたうえで、フレンチテックが目指すものを、「才能のある若者の国外流出防止や、大企業への就職を望む若年層への『スタートアップは格好いい』というキャンペーンと、それによる失業対策がいわば裏テーマとしてある」と説明している。

## 2月28日から横浜で開催

# ＣＰ＋２０１９の概要を発表

## 18年は女性客比率が20％超



林市長㊧と牛田代表理事会長

カメラ映像機器工業会（ＣＩＰＡ）は、2019年2月28－3月3日に総合カメラ映像ショー「ＣＰ＋（シーピープラス）2019」を、パシフィコ横浜などで開催する。

ＣＰ＋2018は過去最多の6万8000人を動員。廣瀬行哉・ＣＰ＋実行委員長は、「女性来場者比率が初めて20％を超え初来場者も増加した」と報告。来場者アンケートではセミナーや講演会への期待が高いことが分かっており、「自分のためになる何かを持ち帰りたいのではないか」と分析した。

18年12月13日には、横浜市内で開催する写真・映像のイベント群「フォト・ヨコハマ2019」との合同記者発表会を開催。ＣＩＰＡの牛田一雄代表理事会長と林文子横浜市長が登壇した。

19年は新製品展示をはじめ、若い女性に写真の楽しさを伝える企画やアートコミュニティースペースを開催する。18年12月13日現在の出展社数は124社・団体で小間数は1148。来場者数7万人を目指す。平日の2月28－3月1日には、一眼カメラを中心に動画ソリューションを紹介する「プロ向け動画エリア」に14社が出展する。

質疑応答のなかで廣瀬委員長は、ドイツの展示会「フォトキナ」が20年から5月に開催することに関連して、「ＣＥＳや春商戦もあり2月後半は良い時期。時期の変更は考えていない」と話した。

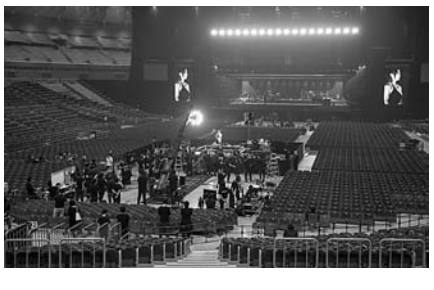
## ソニー・インタラクティブ

# PS VRで3D映画を配信

## ライブ映像もＶＲ化



「Hikaru Utada Laughter in the Dark Tour 2018 - "光" & "誓い" - VR」メイキングから（上下とも）



ソニー・インタラクティブエンタテインメント（ＳＩＥ）は、シアター体験を実現するＰｌａｙＳｔａｔｉｏｎ ＶＲ用動画視聴アプリケーション『シアタールームＶＲ』で、『スパイダーマン：ホームカミング（吹替版）』や劇場版アニメ『攻殻機動隊Ｓ．Ａ．Ｃ．ＳＯＬＩＤ ＳＴＡＴＥ ＳＯＣＩＥＴＹ－ＡＮＯＴＨＥＲ ＤＩＭＥＮＳＩＯＮ－』など、3Ｄ映画や劇場版アニメの有料配信を始めている。

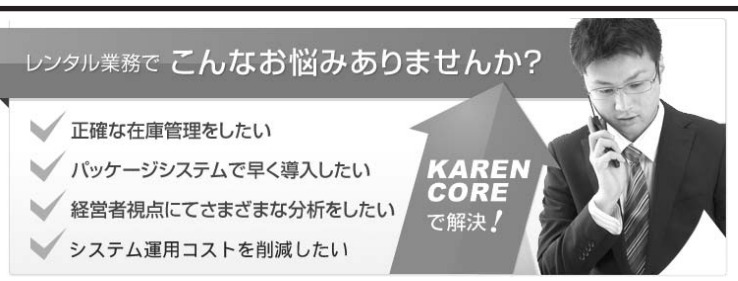
アプリ内課金で購入、視聴する。価格は600－700円（税込）。

同アプリは現在ベータ版をテスト中。最新版では内装に「大型シアター」「宇宙空間」を追加した。また、有料サービス「ＰｌａｙＳｔａｔｉｏｎ Ｐｌｕｓ」加入者には、ＰｌａｙＳｔａｔｉｏｎ 4用ソフト『Ｈｉｋａｒｕ Ｕｔａｄａ Ｌａｕｇｈｔｅｒ ｉｎ ｔｈｅ Ｄａｒｋ Ｔｏｕｒ 2018 － 〝光〟＆〝誓い〟－ ＶＲ』で収録される〝光〟を先行配信。1月18日からは〝光〟と〝誓い〟を一般配信する。

18年冬に行われた宇多田ヒカルの同名のライブツアーから2曲をＰＳＶＲ用に収録したもので、ライブの様子を3種類のアングルから鑑賞できる。ステージから降りてきた宇多田ヒカルが目の前で歌う演出もある。

ＹｏｕＴｕｂｅではこのメイキング映像を公開している。

KAREN-CORE
http://karen-core.com
・イベント･映像機器レンタル事業者様向け
・オールインワンパッケージ
・多角的な分析が可能
・安価で短納期に導入




イベント･映像機器レンタル事業者様向け業務システム
「KAREN-CORE for WEB/SaaS」
“商品が戻ってくる”レンタル業に必要な機能がオールインワンパッケージに。
見積･契約　在庫管理　入出庫　請求　分析機能　マスタ管理

キッセイコムテック株式会社
〒170-0005 東京都豊島区大塚3-32-1
http://www.kicnet.co.jp
KISSEI COMTEC
お問い合わせはコチラまで…
システムソリューション事業部 KAREN-CORE担当者まで
Tel:03-5843-0330 http://karen-core.com

## 「レジャージャパン2018」開催

# 対話型画像生成システムや次世代体験型ゲームをデモ

「レジャージャパン2018」が2018年12月5―7日に東京・有明の東京ビッグサイトで開催された。

タケナカを中心としたシンユニティグループは、幅広い世代が楽しむことのできるインタラクティブコンテンツや演出方法を多数提案した。

今回は「CREATIVE WALL」を、AIエンジンで学習した名画風に映像をリアルタイム変換する画像生成システム「AIGA」と組み合わせて展示した。

「CREATIVE WALL」＋「AIGA」は、壁をなぞるとカラフルなインクで描くことができるインタラクティブ装置。プロジェクターとセンシング技術を組み合わせることで、壁がクリエイティブな空間へと一変する。

また「テーブルマッピング」では、カフェやレストランのテーブルで、日常の空間を鮮やかに彩り雰囲気を一変することができるプロジェクションマッピング（マッピング）技術やセンサー技術など複数の技術を融合させたデモを実施した。

タケナカ営業本部アカウントプロデュース部メディアセールスの矢澤悠美氏は「テーブルマッピングは、東京・青山のレストランに最近導入された。今後もレジャー施設などさまざまな用途で提案していきたい」と話していた。



シンユニティグループのブース



ラディックスのブース

ラディックスは「次世代体験型ゲーム サイバースタジアム」のデモ展示をした。このシステムはセンサー、カメラで物体、人の動きを感知し、プロジェクターにより壁面や床面に投写した映像がリアルタイムで変化する。さまざまなエフェクトにより、壁面や床面を演出している。プロジェクター、センサー、システムPCが一体で埼玉県越谷市の「イオンレイクタウン」に常設設置されているという。

## シーグラファジア2018

# 各種VRシステムを披露

### フォーラムエイトがプラチナスポンサー　大型ブース構える

フォーラムエイトは、昨年12月4―7日に東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催されたCGとインタラクティブ技術の国際展示会「SIGGRAPH Asia（シーグラファジア）2018 東京」の独占プラチナスポンサーとしてVRをクラウドで操作可能なVR―Cloudなど、多様なデバイスと連携するVR／ARシステムを展示した。

また統合型3DCGソフトShade3D、ゲーム開発・組み込みシステム開発など、VR―Design Studio UC―win／Roadをプラットフォームとした最新3DVRシミュレーション技術をデモし、連日多くの来場者でにぎわった。

同社は昨年8月にShade3D（シェードスリーディー）社の全株式を取得し同社を完全子会社とした。Shade3D社は、自社開発の3DCGソフト「Shade3D」シリーズを中心に長年この分野で事業展開している。

今年1月にはShade3Dをフォーラムエイト本体に吸収合併させ、同社の一事業部門としてさらなる連携強化を図る。今回の展示では、この3DCGソフト「Shade3D」を全面活用しフォーラムエイトのスタンスを示した。



フォーラムエイトのブース

会場で説明にあたっていたフォーラムエイトの武田晃奈氏は「当社のシミュレーターは海外の来場者にも好評だった。世界の人に当社の取り組みがアピールできたと思う」と述べている。

## マスコミ文化協会がセミナー

# 屋外広告活動の実情解説

## マッピングなどの活用提案

『月刊サイン&ディスプレイ』を発行するマスコミ文化協会は、12月14日に東京都港区の品川フロントビルで「第2回屋外プロモーションセミナー」を開いた。主にプロジェクションマッピング（マッピング）を中心として3氏が講演した。

### ◆地域活性化イベント

竹芝エリアマネジメントの事務局長である田中淳典氏は「エリアマネジメントによる集客について」と題して講演。東京のナイトライフが充実して、にぎわいのある街づくりを目指す竹芝エリアマネジメントにおいて、映像や照明などを使った演出・イベントによる集客・地域活性化の取り組みについて説明した。


田中氏

竹芝エリアマネジメントでは、地域活性化を目的とした東京都港区の竹芝地域の夏祭りである「竹芝夏ふぇす-TAKESHIBA SeasideMusic & Dining」を毎年夏に開催している。

「竹芝夏ふぇす」は、2015年から公共空間である竹芝ふ頭を活用する社会実験として、地域住民や近隣の就業者向けに実施しているもの。この夏は、マッピングなどを使った竹芝地区では初のイベント「竹芝Town of Light Festival」を8月22―24日に開いた。

昨年は小笠原諸島が返還50周年を迎えたこともあり、小笠原の魅力を50色の色で表現する「OGASAWARA 50 COLORS」をテーマに盛り込んだマッピングとライティング技術を用いたイベントとなった。

田中氏は「途中でゲリラ豪雨に見舞われる日もあり苦労もしたが、毎日盛況で多くの人にマッピングを楽しんでもらえた。今後もこのような大きなマッピングイベントを積極的に手掛けていきたい」と意欲を示した。

### ◆野外広告の法律

「この広告、東京都でできるの?」では、関東地区と中京地区で看板業を営む大竹一史氏（OOHフリーコーディネーター）が、屋外プロモーションにかかわる法律について解説した。


大竹氏

最近はマッピングなど大規模な映像を使ったイベントが増えているが、屋外広告関連の法律に熟知する大竹氏がそれぞれの事例を交えながら、具体的なケースについて法律的に「セーフ」か「アウト」かなどを分かりやすく伝えた。

### ◆ガイドラインの策定

「国土交通省が進めるプロジェクションマッピングの規制緩和について」というテーマでは、国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室長の渡瀬友博氏が講演した。


渡瀬氏

国土交通省は2018年3月30日、東京五輪の開催を契機に全国的な広がりが予想されるマッピング技術に対して、全国の自治体における条例の指針となる「投影広告物条例ガイドライン」を公表した。

渡瀬氏は「近年、マッピングに関する技術革新が世界的に大きく進展しており、世界各国でマッピングなどを活用したイベントなどが開催され、都市のにぎわいが創出されている。国交省としてもマッピング実施の環境整備を進めることは、都市の魅力を高める上で重要であると考え、今回のガイドラインの策定に至った」と説明した。

現状、マッピング実施の主なルールとしては、各自治体が屋外広告物法に基づき定めている条例がある。しかし、ルール策定を各自治体に委ねるのではなく、国が自治体の指針となるガイドラインを定めるべきだと考えたという。

各自治体が、マッピングなどによるイベントの実施を緩和する条例改正を実施するためのスケジュールも考慮し、「ラグビーワールドカップ2019」や「2020年東京オリンピック・パラリンピック」に間に合うように、ガイドラインを策定した。

渡瀬氏は、このガイドラインについて詳しく解説し、マッピングイベントをさらに国内に広めていくよう会場に集まった関係者に呼びかけた。




Inter BEE 2018 International Broadcast Equipment Exhibition レポート

## 武蔵
# マルチデバイス制御装置 複数レコーダー同時操作

武蔵は、ビデオサーバー用各種収録／送出用コントローラーを展示。システムインタフェースの「MCI－70」はVTRおよびディスクレコーダーのリモートコントロール用。プレイ／ストップ／FF／スタンバイなどの制御を最大8系統、RS－422で可能。例えば1つのコントローラーでVTR6台を同時制御、または複数のコントローラーからの制御ができる。リンク機能で増設しての同時制御可能。ブースでは、AJA、BMD各レコーダーとのマルチサーバー同期制御を実演した。

マルチデバイスコントローラー「MDC－70」は、AJA、BMD各レコーダーの複数台同時制御をデモ。マルチディスプレーや8Kディスプレーなどの送出制御もできる。

輸入品では、ファブリックス社の4K対応信号発生器／測定器「Qx－12G／IP」、シンプリーライブ社の6入力2出力のスイッチャー／キーヤー／ビデオサーバー「MVX－6200」などの機能を1筐体に収めた「ViBox8オールインワン・プロダクション・システム」を出展した。



武蔵のシステムインタフェース、マルチデバイスコントローラー製品


CISVCC－4K2

## ニューエックス
# 超小型4Kカメラ出展 HLG出力にも対応

ニューエックスは、自社単独では初出展。CISの独自アルゴリズムに基づいたイメージングプロセッサー「Clairvus」採用の超小型4Kカメラ「CIS VCC－4K2」は、ニー製1・0型グローバルシャッターCMOSイメージセンサーを搭載、60p／59・94p／50p、および1080／60p／59・94p／50p出力、色補正、ガンマ、ノイズリダクション機能のほか、外部ゲンロックに対応する。

フルHD版の「VCC－HD3」は筐体が4K2の1/4程度ときらに小型で、29（W）×29（H）×77ミリ（D）のサイズ。

シネテック社製品からは、ノンリニア編集からの最終出力ファイルに直接インサート編集可能な4K対応スタンドアローンソフトウエア「cineXtools」を実演。各種コーデックに対応し、並行コピーを可能にしている。

リテイク作業に使える。

5月に取り扱いを開始した「BLACKJET TX－4DS」は、撮影ファイルのインジェスト・編集・アーカイブに使用するメディアドック。サンダーボルト3対応、4×PCieドライブスロット搭載。4枚のSxSメディアカードモジュールを装着して4枚同時並行コピーを可能にしている。

## アルビクス
# 映像・音声エラー監視 ボード構成の最新モデル

アルビクスは、ビデオ／オーディオエラー検出装置「VAD－F200O」など最新の製品を展示した。

「VAD－F2000」は、同社のこれまでの映像・音声エラー監視モデルがボード構成になって進化した。監視ポイントに合わせて最適な構成が可能という。

簡易的な直近同録ボードを使用すれば、PC上でエラー発生時の状態を迅速に確認することができる。



アルビクスのブース

同社は、1921年設立である新潟県燕市において刃ヤスリの製造を源流とする本宏製作所から2007年にアルビクスとして分社した。本宏製作所時代を含め、かつては大型映像マルチビジョンの拡大装置のトップメーカーとして市場を席巻していた。

最近は放送局周りのシステム開発に特化した、ユニークでニッチながら重要な製品を製造している。

## ミハル通信
# 8K IPライブ伝送 新4K8K衛星方式で視聴

ミハル通信は、ISDB－S3変調器と開発中の8K HEVCエンコーダーを使用した8K館内共聴システムとして、アストロデザインのブースから8Kコンテンツの等のビットレートまで圧縮し、ISDB－S3変調器でBS－IF信号に変調、8Kテレビで視聴できる様子を示した。

ISDB－S3変調器は、高度広帯域衛星デジタル放送方式（ISDB－S3）に対応した信号を出力する。TLV－MMT信号をISDB－S3方式で符号化／変調し、BS／CS－IFの任意チャンネルに出力可能。テレビメーカーの工場ラインでの4K・8K放送関連のテスト信号源、TLV－MMTコンテンツの検証用に使用できる。

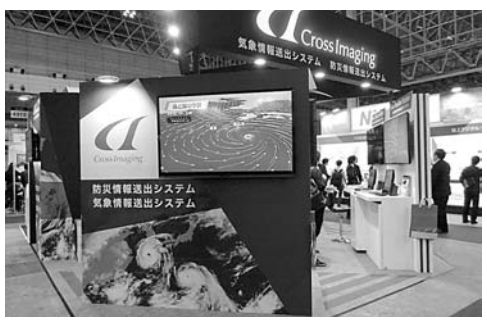
このほか、新4K8K衛星放送をはじめ、国内すべての放送信号の測定が可能なRFアナライザーなどを出展した。


新4K8K衛星放送対応の4K HEVCおよび8K HEVC(中央)をそれぞれ参考出品

## クロスイメージング
# 3D気象情報作画システム 新描画エンジン実演

クロスイメージングは、防災・気象などの情報送出システムを展示。数値予報のデータを解析し可視化する3D気象情報作画システム「BOLTウェザー・ステーション」は、新描画エンジンを搭載して、現行モデルと比較展示した。

各種情報システムからは、地震・津波などの防災情報送出システム「ニュー・ディザスター・ステーション」、新気象情報作画・送出システム「ニュー・ウェザー・ステーション」、緊急地震速報・送出システム「EEWステーション」、L字お天気チャンネルシステムなどのラインアップをデモした。



クロスイメージングのブース

## オンリースタイル
# レンタル電源に新機種 製造効率高め需要に対応

電源レンタル専門店のオンリースタイルは、バッテリー式電源「エコパワー・シリーズ」のラインアップに最大容量5000W／hの「エコパワー5000」を追加した。同型機「6400」同様に堅ろうなスチールボディにタイヤが装着された屋外対応の電源装置。連結可能な小型蓄電型電源の同「2500」を内部機とし採用することで、製造効率を高め、電源レンタル需要の増加に応える。

エコパワー・シリーズは、撮影・中継現場、プロジェクションマッピングやイルミネーション等のイベント会場、ドローンの充電などでレンタル利用されている。ガソリンを使わず、騒音がない。インターネットで必要な時だけレンタル注文できる。


エコパワー5000


高橋建設はユニット式の簡易型アナウンス・ブースを出展


撮影機材レンタルのビデオサービスは、バーカウンター形式のブースを構えた。「会場を見られた方とのコミュニケーションを、機材導入の参考にする狙いもある」（塩部宏営業本部長）という

Inter BEE 2018 International Broadcast Equipment Exhibition　レポート

## 映像センター
# 米CHIEFの各種マウント 多様な環境での設置に対応

映像センターは、同社が正規輸入代理店となっているプロジェクター、液晶ディスプレーなどのデジタルサイネージ（サイネージ）向けマウントのトップブランド、米CHIEF（チーフ）製品を全面に押し出したブースの演出でアピールした。



新製品の屋外向け・自立/天つり共用マウント

新製品の屋外対応マウントは、天つり・自立どちらにも対応できる共用タイプ。屋外向けディスプレーモニターの設置に適しているという。大型・小型、スタンド、天つり、壁掛け、プロジェクター用など、さまざまな用途・環境に対応できる「デジタルサイネージの設置スタイル」を提案した。

屋外対応の1画面タイプ／2画面タイプともに天つり・自立の両方法に対応する新製品。ポールや取り付けベースも屋外専用で対候性に優れており、サイネージの活用幅を広げるシリーズとして市場に提案する。

そのほかには、新製品の屋内向けエンクロージャー、中型軽量ディスプレー向けの壁掛けマウント、屋外向けスウィングアーム壁掛けタイプなど、「設置スタイル活用」のための製品ラインアップを展示した。

映像センターでは、ここ数年「CHIEF」の名称を全面に押し出したブースでマウント製品を展示している。説明員は「その成果でCHIEFブランドが日本でも浸透し始めた。売り上げもアップしている」と話した。

## 東京舞台照明
# 野外ライブイベント向け 演出照明器具を主力に出展

舞台照明に特化したソリューションを得意とする東京舞台照明は、急激に市場が拡大している大型イベントや音楽フェスなど、屋外ライブイベント向けの演出用照明器具の屋外仕様製品を中心に出展した。


照明機材のラインアップと演出デモの模様

全天候型ムービングヘッド新製品「G20 HYBRID IP」や、参考出品の「GLW7QZ IP」、「G6H NOVA IP」など防滴対応IP仕様ムービングライトを展示。そのほか最新照明器材の説明や、演出照明のデモを実施した。

「G20 HYBRID IP」は、高出力（470ワット）の光源を採用した、IP対応のムービングヘッド。屋外イベントでは、映像や音響機器とともに照明の役割も重要となる。それに向けた新製品であり、多くのイベントの現場での活躍を期待しているという。

「GLW7QZ IP」は、全天候型の防滴対応IP仕様ムービングライト。業界から待望されていた製品でハイパワーのライトである。

## ラムダシステムズ
# 4K対応テロップシステム 従来のHD素材も生かす



4K HDR対応テロップシステム「GRID-ZERO」

ラムダシステムズは「4K HDR対応テロップシステム GRID－ZERO」を中心に展示。新4K8K衛星放送の開始に伴い、テロップシステムも4K対応の需要が高まっているという。

「GRID－ZERO」は、HD素材をそのまま4K／HDR素材として送出が可能で、これまでの素材を生かすことができるのが特徴だ。自動的に必要な色域・階調変換をし、高精細映像を4Kテロップで演出する。

「緊急情報速報システム e－Telop5」は、汎用性に富んだL字テロップシステム。生活情報から災害時等の緊急情報まで、さまざまなテロップ制作を支援する。

参考出展のマルチデバイスソリューションは、マルチデバイスから利用可能な仮想デスクトップソリューション。場所・端末の自由度が高まり、利便性向上につながる。

そのほか、表現力が向上したテロップ素材の作成・編集ソフト「SceneEditor5」、便利な機能が追加された新しい「簡易スポーツ2」、各種スポーツコーダーなどをそろえた。

ラムダシステムズは、2018年に創業35周年を迎えた。同社は「電子テロップの枠を越えた映像ソリューション企業として、ユーザーの目線に沿った、より良いサービスを生み出していく」としている。

## ニッキャビ
# 「オープンダクト」発表 多用なケーブル配線に対応


オープンダクトシリーズ

放送などの業務機器用キャビネットラックやコンソールデスク、関連部品の開発・設計・販売のニッキャビは、多様なケーブル配線ルートに対応する「オープンダクトシリーズ」を展示した。樹脂製で加工性に優れ、豊富なパーツ設定が可能。可動式ダクトキャリアは、ラック内の入線位置に合わせて調整できる。

同製品をラック天井部に配置した「オーバートップダクト」仕様は、ケーブルラダーが設置されていないラック室やラック上部での配線の階層分けに適している。

床下スペース内の配線階層分けには「アンダーフロアーケーブルマネージャー」と「チャンネルベース」を組み合わせた「アンダーフロアーダクト」仕様で対応する。

また、新製品のマルチスタンド「cyber STAND」は、サイネージをはじめとするさまざまな用途に使用可能。

ほかに、モジュール式コンソールデスク「cyberRAIL」や静音ラック「SRCシリーズ」などのラック製品をそろえた。

## ルミネックスジャパン
# 最新ファームウエアによる AVBへの対応をアピール

ルミネックスジャパンは、「GigaCore（ギガコア）シリーズ」を中心に最新のファームウエアによるイーサネットAVB対応をアピールした。オフラインソフトウエアとモニタリングツールを主力に展示。加えて、照明や制御関連向けにDMXコンバーターの新しい情報を伝えた。

「ギガコアシリーズ」と「ファームウェア2・7・1」については、「ギガコアネットワークスイッチは、非常にユーザーフレンドリーなインタフェースと強じんなイーサコンコネクターで、卓越したパフォーマンスと信頼性を提供している。ギガコアを所有していれば、AVB対応のファームウエアにアップグレードが可能。このファームウエアにより、ギガコアはAVB特有のgPTPのクロックにも対応し、正式にAVBへの対応が可能になる。最新のモニターツールを利用すると、簡単にファームウエアのアップグレードが可能」と説明していた。

ルミネックス ネットワーク インテリジェンス社は、ベルギーで創業されたエンターテイメント業界におけるプロ仕様の照明、音響、映像のデータ伝送機のメーカーである。ルミネックスジャパンは、日本法人として2017年に設立された。



ルミネックスジャパンのブース


EXA INTERNATIONAL
LTO アーカイブサービス
大切な映像資産を次の世代へ
テープからファイル管理へ
LTO-アーカイブシステム LTS-80+MAM
（LTO-8にも対応）
貴重な映像資産であるテープメディアを後世へと残し、
共有・再活用のしやすいファイルでのアーカイブ化をご提案致します。
旧型機器に至るまで多種多様なメディアに対応
高品質な方式変換デジタルリマスター作成
ファイル化により検索・共有・再利用が容易に
株式会社 エクサインターナショナル　〒107-0052　東京都港区赤坂2丁目16番9号
TEL：03-5575-3911　FAX：03-5575-3910　http://www.exa-int.co.jp/

ドイツの名匠ペッツォルト監督の新作

# ナチスの迫害と移民問題

## 行き場を失う亡命者を軸に描く

## 「未来を乗り換えた男」

ナチスの迫害、そして当事者たちの心の惑いを重ね合わせて表現した傑作『未来を乗り換えた男』（2018年／クリスティアン・ペッツォルト監督・脚本、ドイツ・フランス合作、102分）が公開される。ドイツ映画界で高い評価を得ているペッツォルト監督は、新作では過去のナチスの理不尽な行為と、現代の祖国を追われる難民を共通項にくくり描いている。

（中川洋吉・映画評論家）



「未来を乗り換えた男」（マリー㊧とゲオルク）
©Schramm Film（以下同じ）

◆人生の乗り換え

原題は『TRANSIT』。海外旅行でおなじみの言葉であり、乗り換え、乗り継ぎを意味する。

ナチスの迫害からフランスに逃避するゲオルク（フランツ・ロゴフスキ）と彼を取り巻くドイツ人たちは、故国をやむなく離れ、乗り換え地点で自らの居場所を求める様子が、作品の骨子となっている。

◆時代設定

舞台は占領下のパリの1940年代だが、街の様子は現代である。デモの警官も、昔ながらのケピー（丸形のつばのある帽子）ではなく、現在のフランスを揺るがす労働者のデモ「黄色いベスト」に対し、現在の重装備で対峙している。

ペッツォルト監督は、1940年と2018年との違いを意図的に取り払っている。これは、ナチスの迫害も現在の移民問題も同根とし、行き場を失った人々にアクセントを置いている。

◆ナチス占領

ナチスの台頭と占領について、簡単に触れておく。第2次世界大戦は、1939年9月1日のドイツ軍（ナチス）によるポーランド侵攻が発端である。フランスでは1940年6月14日のパリ陥落が始まりで、本作はその時期を最初に取り上げている。

その後、ナチスは徐々に南下する。同年6月25日、フランスは対独降伏し占領状態となる。その後のナチスとの対決は、個々のレジスタンス・グループの抵抗という形をとり、国家は早々と白旗を掲げた。多分、戦禍の拡大を阻止するための配慮かもしれない。この戦争、英米の参戦によりナチスは1945年5月7日に降伏し、戦争は終結した。

◆ゲオルクのフランス滞在

ナチスの台頭に伴い、ドイツ国内の多くのレジスタンス・グループの人々や多くの知識人がフランスへ亡命したが、フランスも安住の地ではなかった。

主人公として、元レジスタンス運動にかかわった若きドイツ人、ゲオルクが設定される。彼は、ある日パリのカフェで同国人の友人に呼び出され、1通のレターを託される。

◆ヴァイデルの死

ドイツの反体制派、亡命作家ヴァイデルがレターの差出人で、受取人は妻のマリー（パウラ・ベーア）である。なぜ直接手渡さないのか、不審に思うゲオルクだが、仲間からの依頼であるレターを預かり、ヴァイデルが投宿するホテルを訪れる。

ペッツォルト監督は、時代を越えるパリを描くと言うが、古いパリの佇まいが画になり、亡命の人々の有様が浮かび上がる。ホテルに着くと、ヴァイデルはバスタブで自殺を図り、風呂場は血の海。ホテルの女主人は厄介な問題にかかわりたくなく、ヴァイデルのかばんを彼に託す。



マリー㊧とゲオルク（マルセイユで）

◆マルセイユ行き

パリは占領下で、ナチスがフランス人を居丈高に監視する都市と化し、亡命者ゲオルクは、未だ安全な地中海への窓となるマルセイユへと南下する。そして、マグレブ諸国（アルジェリア、チュニジア、モロッコ）移民の多いマルセイユと亡命者とを結びつける。亡命者も本質的に移民の一形態であるからだ。

車中でゲオルクは、ヴァイデルの遺品の中からマリーが夫へあてた2通のレターを発見する。全く異なる文面である。1通目は「別れましょう」、2通目は「今すぐ会いたい」である。ほかにメキシコ領事館からのメキシコ招待状がある。

陽光あふれる、明るいマルセイユに着いた彼は、1日でも早く国外に脱出したいため、メキシコ領事館へ赴く。領事館は国外脱出を希望する人でごった返す。

領事と面談する彼は、ゲオルクは、亡くなったレジスタンスの仲間ハインツの死を伝えるべく、郊外の低所得者用のアパートに足を運ぶ。そこで出会ったのが、ドリスというサッカー好きの少年で、一緒に興じる仲となる。

彼はドリスの家に誘われ、そこで初めてハインツの妻と会う。夫の安否を心配し、今にも倒れそうな彼女であった。その翌日、ドリスが病気との知らせをホテルで受け、やっとの思いでマルセイユ在住のドイツ人医師を探し出す。ドリスの病気は喘息（ぜんそく）で、大事には至らなかった。

医師のリヒャルトによれば、彼もフランスを離れ、一刻も早くメキシコ行きを望み、いったんは乗船したものの、連れの黒いコートの女性と別れ難く、自ら下船しマルセイユにとどまったという。彼のような愛情問題で抜き差しならなくなって、メキシコへの招待状を示し、ビザの発給を申請する。いつもは、形式的な対応を見せる領事部だが、ゲオルクに対しては丁重な態度で臨む。作家ヴァイデルへの招待状の威光である。直ちにビザが発給される。

作家と勘違いされたゲオルクは彼に乗り換わることを、その場で決意し、以降ヴァイデルに成り変わる。このために、後に彼にとり面倒な事態の展開となるが、まだその気配はなく、取り敢えず安堵の胸をなでおろす。



ペッツォルト監督

◆少年との出会い

マルセイユに来たゲオルクは、亡命ドイツ人リヒャルトの車でマルセイユへ南下した。

一方的にヴァイデルの元を去ったマリーは罪悪感にとらわれ、2通の矛盾するレターを送ったのだった。彼女の心の迷いである。リヒャルトの部屋で、マリーの身の上話を聞いたゲオルクは、彼女に親近感を覚え、夜をともにする。

翌朝、リヒャルトとマリーのためにビザを取ることを約束する。男気を出し、今までのコネをフルに活用して2人分のビザを手にし、彼らの国外への出発を見送る。そして、最後にドンデン返しが用意される。

故郷を捨てた人々の多さは容易に想像できる。2人の亡命者は同じ希望と失望を持つ人間であることを確認し合う。

その後、ゲオルクはリヒャルトの部屋を訪ねるが彼は不在で、彼の連れの女性と会う。彼女こそが幾度も姿を見た黒いコートの女性であることが分かる。さらに、彼女は作家のヴァイデル夫人でもあったが、パリでの夫の自殺は知らなかった。

ここで、1人の女性マリーと3人の男性の構図となり、遺品のレターは彼女が書いたものであった。マリーは、お先真っ暗なヴァイデルとの未来に絶望し、同じ亡命ドイツ人リヒャルトの車でマルセイユへ南下した。

一方的にヴァイデルの元を去ったマリーは罪悪感にとらわれ、2通の矛盾するレターを送ったのだった。彼女の心の迷いである。リヒャルトの部屋で、マリーの身の上話を聞いたゲオルクは、彼女に親近感を覚え、夜をともにする。

翌朝、リヒャルトとマリーのためにビザを取ることを約束する。男気を出し、今までのコネをフルに活用して2人分のビザを手にし、彼らの国外への出発を見送る。そして、最後にドンデン返しが用意される。

話の筋が大変良くでき、ナチスものとしての新しい側面を見せている。ラストはジャン・ギャバン主演の戦前の名画『望郷』（1937年）を彷彿させる味わいがある。

◆構成の発想の良さ

仏独の合作作品だが、内容的にはドイツ映画であり、監督のペッツォルトは既に『東ベルリンから来た女』（2012年）、『あの日のように抱きしめて』（14年）の代表作があり、語り口のうまさ、物語構成の発想の良さに見るべきものがある。さすが、ドイツのトップクラスの監督である。

ゲオルク役の、主演フランツ・ロゴフスキは、ミヒャエル・ハネケ監督の『ハッピーエンド』（17年）、マリー役のパウラ・ベーアは、フランソワ・オゾン監督の『婚約者の友人』（17年）で知られる。2人は今後が期待される若手で、ともにドイツ人である。

暗い時代の中で、少しの勇気をもって生きる人間の惑いは、メロドラマ的要素があるが、人生の一面を鋭く写し出している。従来のナチスものと異なり、切り取り方に工夫が凝らされている。こが本作の魅力である。

〈文中敬称略〉

▣『未来を乗り換えた男』は、1月12日からヒューマントラストシネマ有楽町、新宿武蔵野館ほか全国公開

発売中
映像新聞 縮刷版
2018年前期版（1月～6月）

半年分の映像新聞を1冊にまとめた「2018年前期縮刷版」が発行となりました。めまぐるしく変化する映像業界の動向を集約する「映像新聞縮刷版」は、目次には、ジャンルごとに項目を掲載し、業界の動向が簡単に索引できるようになっております。企業のビジネス戦略において、貴重な情報ツールとして、また、保存版の映像新聞として広くご利用いただいております。

仕様：A4判／価格：7,000円（税別、送料別途）




ご購入は映像新聞ウェブサイトからお申し込みいただけます　www.eizoshimbun.com
アマゾン（www.amazon.co.jp）、富士山マガジンサービス（www.fujisan.co.jp）からもご購入いただけます

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ
株式会社映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾ–ビル／TEL：03-3942-2161／FAX 03-3942-2581　e-mail：info@eizoshimbun.com

# 2019年の映像・情報通信主要行事 ①

## 1月 JANUARY

### フィルムカメラ展
開催中－3月10日まで

問い合わせ＝日本カメラ博物館 03－3263－7110

### CES2019
1月8－11日／米国・ネバダ州ラスベガス

詳細＝http://www.ces.tech/

### VIPOが19年1－3月に全5回　ピッチトレーニング講座　アニメの海外展開を支援
1月11日、30日、2月20日、3月1日、12日／東京ビッグサイト 会議室（東京都江東区）

詳細＝www.vipo.or.jp/news/19656

### 第48回インターネプコン ジャパン
1月16－18日／東京ビッグサイト（東京都江東区）

詳細＝https://www.nepcon.jp/ja－jp.html

### 高柳健次郎財団 贈呈式
1月18日／千代田放送会館(東京都千代田区)

問い合わせ＝高柳健次郎財団 03－3239－1207

### 舞台・テレビジョン照明のための公開講座(地域講座)
福島＝1月21、22日／福島県産業振興センター コラッセふくしま（福島市三河南町）

詳細＝http://www.jaled.or.jp/html/technical/page.php?id=1481

### FIPA2018　(国際テレビ映像フェスティバル)
1月22－27日／フランス・ビアリッツ市

詳細＝https://www.fipadoc.com

### 舞台・テレビジョン照明のための公開講座(中央講座)
東京＝1月23－25日／芸能花伝舎（東京都新宿区）
新潟＝1月29－31日／新潟県民会館（新潟市中央区）

詳細＝http://www.jaled.or.jp/html/technical/page.php?id=1441

### 第3回 Japan IT Week 関西
1月23－25日／インテックス大阪（大阪市住之江区）

詳細＝https://www.japan－it－osaka.jp/ja－jp.html

### MPTE第43回勉強会「デジタルコンテンツのアーカイブを支える最新技術動向」
1月25日／松竹株式会社・大会議室（東京都中央区）

会員無料・非会員有料

### ジャパン アミューズメント エキスポ 2019 (JAEPO2019)
1月25－27日（26,27日一般公開）／幕張メッセ（千葉市美浜区）

問い合わせ＝JAEPO事務局 info@jaepo.jp

### J･VIG 第20回「ヤング映像クリエーターを励ます賞」表彰
1月30日／ANAコンチネンタルホテル東京(東京都港区)

問い合わせ＝日本映像事業協会事務局 03－3505－2870

## 2月 FEBRUARY

### 舞台・テレビジョン照明のための公開講座(地域講座)
福岡＝2月4、5日／福岡市民会館（福岡市中央区）
東京＝2月12、13日／江東区森下文化センター　(東京都江東区)
広島＝2月12、13日／広島市東区民文化センター（広島市東区）

詳細＝http://www.jaled.or.jp/html/technical/page.php?id=1481

### 舞台・テレビジョン照明のための公開講座(中央講座)
福岡＝2月4－6日／福岡市民会館（福岡市中央区）
名古屋＝2月18－20日／名古屋市中小企業振興会館（名古屋市千種区）
大阪＝2月26－28日／エル・おおさか（大阪市中央区）

詳細＝http://www.jaled.or.jp/html/technical/page.php?id=1441

### 第27回 3D&バーチャル リアリティ展
2月6－8日／東京ビッグサイト（東京都江東区）

詳細＝https://www.japan－mfg.jp/ja－jp/about/ivr.html

### 2019年エランドール賞授賞式・新春パーティー
2月7日／京王プラザホテル（東京都新宿区）

問い合わせ＝日本映画テレビプロデューサー協会 03－5338－1235

### 2019年版 コンテンツ業界が知っておきたい中国ビジネス攻略セミナー
2月7、8日／映像産業振興機構（東京都中央区）

詳細＝https://www.vipo.or.jp/news/20046/

### 第69回ベルリン国際映画祭
2月7－17日／ドイツ・ベルリン

詳細＝https://www.berlinale.de/en/HomePage.html

### 第11回恵比寿映像祭
2月8－24日／東京都写真美術館、日仏会館、ザ・ガーデンルーム、他各所

詳細＝https://www.yebizo.com/

### 第48回番組技術展
2月11－13日／NHK放送センター（東京都渋谷区）

詳細＝http://www.nhk.or.jp/bangiten/

### ケーブルテレビテクノフェア in Kansai 2019
2月15日／大阪マーチャンダイズ・マートビル　2F　Aホール／Fホール／F2ホール（大阪市中央区）

詳細＝http://www.techno－fair.com/2019/

### 第24回学生CGコンテスト受賞発表イベント
2月16、17日／日本科学未来館(東京都江東区)

問い合わせ＝CG－ARTS（画像情報教育振興協会）文化事業部 03-3535-3501

### 舞台・テレビジョン照明のための公開講座(地域講座)
名古屋＝2月18、19日／名古屋市中小企業振興会館（名古屋市千種区）
大阪＝2月27、28日／エル・おおさか（大阪市中央区）

詳細＝http://www.jaled.or.jp/html/technical/page.php?id=1481

### 光産業技術シンポジウム
2月20日／リーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区)

問い合わせ＝光産業技術振興協会 03－5225－6431

### IoT推進ラボ 第8回 企業連携・案件組成イベント「IoT Lab Connection」テーマ：「2030年の街づくり」
2月27日／ベルサール六本木グランドコンファレンスセンター（東京都港区）

詳細＝http://www.meti.go.jp/press/2018/12/20181203002/20181203002.html

### 第6回 ライブ・エンターテイメント EXPO　第6回 イベント総合 EXPO
2月27日－3月1日／幕張メッセ（千葉市美浜区）

詳細＝http://www.live－event.jp、詳細＝http://www.eventexpo.jp/

### CP+（シーピープラス）2019
2月28日－3月3日／パシフィコ横浜（横浜市西区）、大さん橋ホール（横浜市中区）

問い合わせ＝CP+事務局 03－6741－4015

## 3月 MARCH

### 第42回日本アカデミー賞授賞式
3月1日／グランドプリンスホテル新高輪（東京都港区）

詳細＝https://www.japan－academy－prize.jp/

### 第57回JAA広告賞 消費者が選んだ広告コンクール表彰式
3月4日／帝国ホテル（東京都千代田区）

問い合わせ＝日本アドバタイザーズ協会 03－3544－6580

### 第24回AMDアワード
3月4日／明治記念館（東京都港区）

問い合わせ＝デジタルメディア協会 03－6277－3618

### 第154回セミナー『働き方改革対策』
3月6日／東放学園（東京都新宿区）

問い合わせ＝日本ビデオコミュニケーション協会 03－3234－5994

### 特許フォーラム
3月8日／学士会館（東京都千代田区）

問い合わせ＝光産業技術振興協会 03－5225－6431

# 2019年の映像・情報通信主要行事 ②

### 第12回画像情報教育研究会
3月12日(エントリー締切 1月21日)／早稲田大学 西早稲田キャンパス(東京都新宿区)
問い合わせ＝CG－ARTS（画像情報教育振興協会） 教育事業部 03-3535-3501

## 4月 APRIL

### コンテンツexpo東京 2019
4月3－5日／東京ビッグサイト（東京都江東区）
詳細＝http://www.content－tokyo.jp/

### NAB SHOW （エヌエービー・ショー）2019
4月6－11日／米国・ラスベガス コンベンションセンター
詳細＝https://www.nabshow.com/

### Japan IT Week 春　前期
4月10－12日／東京ビッグサイト（東京都江東区）
https://www.japan－it.jp/ja－jp.html

### 第50回照明まつり(技術賞授賞式および機材展示)
4月24日／未定
問い合わせ＝日本映画テレビ照明協会 03－5909－3396

## 5月 MAY

### Japan IT Week 春　後期
5月8－10日／東京ビッグサイト（東京都江東区）
https://www.japan－it.jp/ja－jp.html

### 第31回 ブロードバンド特別講演会
5月10日／明治記念館(東京都港区)
問い合わせ＝ブロードバンド・アソシエーション 03－3457－5882

### 第72回カンヌ国際映画祭
5月14－25日／フランス・カンヌ
詳細＝http://www.festival－cannes.com/

### 東北映像フェスティバル 2019
5月30、31日／仙台国際センター（仙台市青葉区）
問い合わせ=東北映像製作社協会 022－221－5281

### JPPA AWARDS 2019 贈賞式
5月31日／ザ ストリングス 表参道（東京都港区）
問い合わせ＝日本ポストプロダクション協会 03－3355－6420

### 第56回ギャラクシー賞 贈賞式
5月31日／セルリアンタワー東急ホテル（東京都渋谷区）
問い合わせ＝放送批評懇談会 03－5379－5521

## 6月 JUNE

### 第21回 映像音響処理技術者資格認定試験
6月2日(出願受付期間 3月1日－4月30日)／全国約40会場
問い合わせ＝日本ポストプロダクション協会 03－3355－6587

### CMT2019／DSJ（デジタルサイネージ ジャパン）2019
6月12－14日／幕張メッセ（千葉市美浜区）
詳細＝http://www.f2ff.jp/cmt/、http://www.f2ff.jp/dsj/

### ケーブルコンベンション2019／ケーブル技術ショー2019
6月19、20日／東京国際フォーラム（東京都千代田区）
詳細＝https://www.catv－f.com/

### 教育ITソリューション EXPO 東京展
6月19－21日／東京ビッグサイト（東京都江東区）
詳細＝ https://www.edix－expo.jp/ja－jp.html

### 「OTOTEN」～AUDIO・VISUAL FESTIVAL2019～
6月29、30日／東京国際フォーラム（東京都千代田区）
詳細=https://www.jas－audio.or.jp/audiofair/

## 7月 JULY

### 第4回 関西放送機器展
7月10、11日／大阪南港ATCホール（大阪市住之江区）
詳細＝http://www.tv－osaka.co.jp/kbe/

### 前期 CGクリエイター検定・Webデザイナー検定・CGエンジニア検定・画像処理エンジニア検定・マルチメディア検定
7月14日（出願：4月上旬～6月上旬）／全国約200会場
問い合わせ=CG－ARTS（画像情報教育振興協会）検定実施センター 03-3535-3501

### 第19回 光通信技術展 － FOE － 第3回 映像伝送 EXPO<br>第2回 5G／IoT通信展 第2回 4K・8K映像技術展
7月17－19日／東京ビッグサイト（東京都江東区）
詳細＝https://www.foe.jp/ja－jp.html

### SIGGRAPH 2019
7月28日－8月1日／米国・ロサンゼルス
詳細＝https://s2019.siggraph.org/

### 九州放送機器展2019(QBE)
7月31日、8月1日／福岡国際センター（福岡市博多区）
問い合わせ＝九州放送機器展2019事務局 092－711－2266

### 第9回衛星放送協会オリジナル番組アワード授賞式
7月予定／未定
問い合わせ＝衛星放送協会 03－6441－0550

## 8月 AUGUST

### Beijing International Radio, TV & Film Exhibition(BIRTV)
8月20－24日／China International Exhibition Center(中国・北京)
詳細＝www.birtv.com

### 映像情報メディア学会2019年年次大会
8月28－30日／東京工業大学・大岡山キャンパス（東京都目黒区）
問い合わせ＝映像情報メディア学会 事務局　03－3432－4677

### JATET 劇場演出空間技術展2019
8月30、31日／新国立劇場 中劇場(東京都渋谷区)
問い合わせ＝劇場演出空間技術協会 03－5289－8858

## 9月 SEPTEMBER

### IFA 2019 （国際コンシューマ・エレクトロニクスショー）
9月6－11日／メッセ･ベルリン （ドイツ・ベルリン）
詳細＝https://www.phileweb.com/ifa/

### 平成31年度 教育映像祭 中央大会
9月13日／霞ヶ関ビル35F 東海大学校友会館（東京都千代田区）
問い合わせ＝日本視聴覚教育協会 03－3431－2186

### IBC 2019
カンファレンス9月12－16日、展示9月13－17日
／RAI Amsterdam Convention centre（オランダ・アムステルダム）
詳細＝https://show.ibc.org/

### 教育ITソリューション EXPO 関西展
9月25－27日／インテックス大阪（大阪市住之江区）
詳細＝ https://www.edix－expo.jp/ja－jp.html

# 2019年の映像・情報通信主要行事 ③

## 10月 OCTOBER

### 山形国際ドキュメンタリー映画際2019
10月10－17日／会場未定
問い合わせ＝https://www.yidff.jp/home.html

### CEATEC JAPAN 2019
10月15－18日／幕張メッセ（千葉市美浜区）
問い合わせ＝日本エレクトロニクスショー協会 03－6212－5233

### NAB Show NY
10月16、17日／会場未定（米国・ニューヨーク）
詳細＝https://www.nabshowny.com

### TIFFCOM 2019
10月22－24日／池袋サンシャインシティー(東京都豊島区）ほか
問い合わせ＝ユニジャパン 03-6226-3021

### Japan IT Week 秋
10月23－25日／幕張メッセ（千葉市美浜区）
詳細＝https://www.japan－it.jp/ja－jp.html

### MPAセミナー
10月25日予定／六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリアム（東京都港区）
問い合わせ＝日本国際映画著作権協会 03－3265－1401

### 国際アニメーション・デー 2019
10月28日／広島ほか複数会場にて開催予定
問い合わせ＝国際アニメーションフィルム協会日本支部 03－3585－0696

### 第32回東京国際映画祭
10月下旬－11月上旬／六本木ヒルズ、EXシアター六本木（東京都港区）ほか
問い合わせ＝ユニジャパン 03-6226-3021

## 11月 NOVEMBER

### 第23回視聴覚教育総合全国大会 第70回放送教育研究会全国大会 合同大会
11月8、9日／1日目公開授業(都内、埼玉県内 小中学校、特別支援学校）2日目 全大会(都内)
問い合わせ＝視聴覚教育総合全国大会 連絡協議会 事務局 03－3431－2186
全国放送教育研究会連盟 03-5455-4310

### Inter BEE 2019
11月13－15日／幕張メッセ（千葉市美浜区）
問い合わせ＝日本エレクトロニクスショー協会 03－6212－5231

### SIGGRAPH ASIA 2019
カンファレンス11月17－20日、展示会11月18－20日
／ブリスベンコンペンション＆エキシビションセンター（オーストラリア、ブリスベン）
詳細＝https://sa2018.siggraph.org/jp/about-us/sa2019

### 東京インターナショナルオーディオショー 2019
11月22－24日／東京国際フォーラム（東京都千代田区）
問い合わせ＝D&Mホールディングス(事務局）044－670－6611

### 後期 CGクリエイター検定・Webデザイナー検定・CGエンジニア検定・画像処理エンジニア検定・マルチメディア検定
11月24日（出願：9月上旬～10月下旬）／全国約200会場
問い合わせ＝CG－ARTS（画像情報教育振興協会）検定実施センター 03-3535-3501

### 第26回ディスプレイ国際ワークショップ
11月27－29日／札幌コンベンションセンター（札幌市白石区）
問い合わせ＝映像情報メディア学会 事務局　03－3432－4677

### 第64回 「映画の日」中央大会
11月29日／グランドプリンスホテル高輪（東京都港区）予定
問い合わせ＝映画産業団体連合会 03－3243－5585

## 12月 DECEMBER

### 第32回 ブロードバンド特別講演会
12月予定／如水会館(東京都千代田区)
問い合わせ＝ブロードバンド・アソシエーション 03－3457－5882


# 「情報」がビジネスを熱くする。

映像新聞は、放送やブロードバンド、デジタルコンテンツプロダクション、映像制作者など映像業界へ向け、ビジネスとテクノロジーの両視点で情報を発信している専門紙です。映像のデジタル化は、デジタル放送やデジタルシネマといった新しい文化を創り、ブロードバンドにより新しいコミュニケーションを発達させました。映像新聞は、これらの動きをいち早く伝え、新鮮な情報をお届けいたします。
ビジネスを熱くするメディア……それが「映像新聞」です。

映像新聞

毎週月曜日、月4回発行（年間48回発行）
基本ページ数
20ページ／タブロイド判
年間購読料：26,000円（送料込み）＋消費税

海外での購読の場合は、消費税分を除いた料金に別途送料がかかります。　詳しくはお問い合わせ下さい。

ウェブサイトからお申し込みができます
www.eizoshimbun.com

## 短期購読および複数購読のご案内

●短期購読の場合
◎3カ月購読の場合：7,200円（1部600円×12回）＋消費税
◎6カ月購読の場合：14,400円（1部×24回＋消費税）

●複数購読の場合（年間購読契約のみ）
対象となる購読者（以下の3つの条件をすべてを満たすこと）
◎送付先が同一であること
◎請求先が同一であること（送付先とは別でも可）
◎購読契約期間（契約更新月）が同一であること

※料金（申し込み部数により料金を割引きます）
・2–5部は**10%**割引き　（1部、年間23,400円＋消費税）
・6–9部は**20%**割引き　（1部、年間20,800円＋消費税）
・10部以上は**30%**割引き（1部、年間18,200円＋消費税）

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ。
映像新聞社 〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581　e-mail:info@eizoshimbun.com

映像新聞社 海外視察シリーズ

# NAB Show

**NAB Showツアー参加者募集中!**

業界関係者必見! 今すぐ詳細募集パンフレットをご請求ください!

# 放送・映像制作の世界最新動向を視察

NAB SHOW™ Where Content Comes to Life™

4K／8K・HDR・IP・クラウド・AI

## ご希望の方には過去のツアーレポートをお送り致します。

NAB(National Association of Broadcasters)が主催する世界最大の放送機器展NAB Show(エヌエービー・ショー)は2019年4月6日(土)から4月11日(木)〈展示会は8日から〉米国ラスベガスで開催されます。映像新聞社とJTBでは、今回もNAB日本代表事務所の協力により、NAB Showを軸とした視察研修ツアーを企画致します。
NAB Showへは、すべての条件を満たした実績ある映像新聞社のツアーでご参加ください。

- ◆過去40回・延べ4,220名参加の実績
- ◆現地にて速報レポート配付
- ◆充実の企業視察訪問コース設定
- ◆オリジナルプランの設定も可能

## 本ツアー参加のメリット

1. NAB Show現地最新情報満載の日本語速報レポートを毎日配布
2. 話題の展示ブースを日本語同時通訳がご案内
3. NAB Show会場内の映像新聞ブースには日本語通訳が待機
4. 現地で映像新聞特別セミナー開催
5. 現地にて事前説明会の開催(NAB Showの見どころ紹介)
6. 映像新聞記者が同行　（情報発信量が違います!）
7. NAB Show登録手続き代行
8. NAB Show会場から隣接のウエストゲート ラスベガスリゾート&カジノホテル(旧LVHラスベガスホテル)宿泊
9. 延泊・繰り上げ出発も可能（個人出張ベースにも対応!）

## 参加者だけの特別セミナー

NAB Showや米国の最新状況をご理解いただくために、ツアー参加者の方専用のセミナーをご用意しています。

他のツアーにはないNAB Show視察の決定版! 実績と情報発信量が違います!

## 映像新聞NAB Show 視察ツアー・目的に応じた厳選のコース設定

| | Aコース〔8日間〕<br>米国次世代放送<br>関連企業訪問(ニューヨーク)<br>実施期間:4月7日(日)～4月14日(日)<br>最少催行人員:7名<br>基本旅行代金:498,000円 | Bコース〔8日間〕<br>米国最先端映像制作<br>関連企業訪問(ロサンゼルス)<br>実施期間:4月7日(日)～4月14日(日)<br>最少催行人員:7名<br>基本旅行代金:466,000円 | Cコース〔6日間〕<br>NABエキスプレス<br>(成田)<br>実施期間:4月7日(日)～4月12日(金)<br>最少催行人員:15名<br>基本旅行代金:369,000円 | 現地合流コース<br>現地までの航空運賃、交通費は含まれておりません。<br>4泊5日<br>最少催行人員:5名<br>基本旅行代金:271,000円 |
|---|---|---|---|---|
| 4月7日(日) | 東京(成田)発 ① ラスベガス着 NAB Show事前説明会〈ラスベガス泊〉 | 東京(成田)発 ① ラスベガス着 NAB Show事前説明会〈ラスベガス泊〉 | 東京(成田)発 ① ラスベガス着 NAB Show事前説明会〈ラスベガス泊〉 | ① ラスベガス合流 NAB Show事前説明会〈ラスベガス泊〉 |
| 4月8日(月) | ラスベガス・ ② NAB Show視察 〈ラスベガス泊〉 | ラスベガス・ ② NAB Show視察 〈ラスベガス泊〉 | ラスベガス・ ② NAB Show視察 〈ラスベガス泊〉 | ラスベガス・ ② NAB Show視察 〈ラスベガス泊〉 |
| 4月9日(火) | ラスベガス・ ③ NAB Show視察 〈ラスベガス泊〉 | ラスベガス・ ③ NAB Show視察 〈ラスベガス泊〉 | ラスベガス・ ③ NAB Show視察 〈ラスベガス泊〉 | ラスベガス・ ③ NAB Show視察 〈ラスベガス泊〉 |
| 4月10日(水) | ラスベガス・ ④ NAB Show視察 映像新聞特別セミナー〈ラスベガス泊〉 | ラスベガス・ ④ NAB Show視察 映像新聞特別セミナー〈ラスベガス泊〉 | ラスベガス・ ④ NAB Show視察 映像新聞特別セミナー〈ラスベガス泊〉 | ラスベガス・ ④ NAB Show視察 映像新聞特別セミナー〈ラスベガス泊〉 |
| 4月11日(木) | ラスベガス発 ⑤ ニューヨーク着 〈ニューヨーク泊〉 | ラスベガス発 ⑤ ロサンゼルス着 〈ロサンゼルス泊〉 | ラスベガス発 ⑤ 〈機中泊〉 | 各自のスケジュールへ ⑤ |
| 4月12日(金) | 関連企業訪問 ⑥ 〈ニューヨーク泊〉 | 関連企業訪問 ⑥ 〈ロサンゼルス泊〉 | 東京(成田)着 ⑥ | ご出張に合わせたスケジュール変更が可能です。 |
| 4月13日(土) | ニューヨーク発 ⑦ 〈機中泊〉 | ロサンゼルス発 ⑦ 〈機中泊〉 | | |
| 4月14日(日) | 東京(成田)着 ⑧ | 東京(成田)着 ⑧ | | |

**＊各コース共通サービス＊**

- ●ラスベガス到着後 • NAB Show事前説明会 • バッジ事前取得
- ●ラスベガス滞在中 • 日本語速報レポート(毎日) • 通訳付展示ブースツアー • 特別セミナー開催

お申し込み締め切り:2月28日(木)　くわしくはJTBまでお問い合わせください。

●各コースともエコノミークラス、2人1部屋基本代金です。●ビジネスクラス利用、一人部屋などのご指定を別途お受けいたします。詳細募集パンフレットはJTB担当者までご請求ください。

企画 協力 映像新聞 映　像　新　聞　社

協　　力 NAB NATIONAL ASSOCIATION OF BROADCASTERS NAB 日本代表事務所

旅行企画・実施 JTB 株式会社JTB 新宿第二事業部

観光庁長官登録旅行業第1767号（社）日本旅行業協会正会員
旅行業公正取引協議会会員
〒163-0426東京都新宿区西新宿2-1-1新宿三井ビルディング26階
総合旅行業務取扱管理者:設楽裕介　担当:富川・小川

ボンド保証会員
TEL:03-5909-8102　FAX:03-5909-8110
E-mail: nab@jtb.com

海外視察・見本市専門サイト http://www.it-navi.com でもご覧いただけます。

## アストロデザインなど
# 「MADD.Award2019」開催
## 8K映像の可能性追求

アストロデザインは、慶応義塾大学SFC研究所次世代映像コンソーシアムとともにMADD.（Movie for Art, Design and Data）を設立し、「MADD.Award2019」と題した映像アワードを開催する。

映像を取り巻く環境は常に変化し続けているが、「インフラや技術が急速に進化する一方で、その可能性は映像の作り手に十分に伝わっておらず、新しい表現や物語性の開拓は遅れているのが現状。『MADD.Award』は、このような背景から生まれた」という。

新しい映像表現にチャレンジする場を提供するとともに、アワードとそれに伴うイベントの実施を通して「映像作家、デザイナー、アーチスト、技術者の生きた生態系が実現する」としている。

今回が第1回の開催となるが、毎回異なるテーマを設定し、映像の可能性を追い求めていく方針。

「MADD.Award2019」のテーマは、〝potential of 8K〟。8K映像を対象に、まだ見ぬ世界を体感させてくれる作品を募集する。

応募資格は、企業・団体あるいは個人・グループで、年齢、性別、職業、国籍は問わない。作品は、8K解像度（7680×4320）に対応した実写の動画、アニメーション/CG（リアルタイムレンダリングによるものを含む）で、上映時間は原則60―180秒。

エントリー締切日は2月14日、作品提出は2月21日まで。3月中旬に作品上映会を開き入賞作品を発表する予定。

【詳細】madd.jp

## 1月12日に関連
# ワークショップ

e 8Kで発表した『Scalar Fields』の制作プロセスと、それにかかわるソフトウエアの使い方レクチャー

「MADD.Award2019」を開催するにあたり、ワークショップを1月12日に開く。

講演内容は、「Ars Electronica のDeep Space 8Kで発表した『Scalar Fields』の制作プロセスと、それにかかわるソフトウエアの使い方レクチャー」（アーチスト、慶応義塾大学SFC教授/脇田玲氏）、「8Kリアルタイムレンダリング制作テクニック」（クリエイティブコーダー/田所淳氏）、「8K実写映像の制作環境の紹介」（戒能正純氏）。

参加費は無料。なお、セミナー終了後、会費制の懇親会を実施する。

【日時】1月12日/14時開始

【会場】アストロデザイン本社内（東京都大田区南雪谷1―5―2）

【参加申し込み・問い合わせ】info@madd.jp

## Too アニメ制作セミナー
# 白組がワークフロー解説
## 新作のメイキングなど

Tooは、アニメ制作ワークフローセミナー第18弾「TVアニメ『revisions リヴィジョンズ』メイキング―心に残る数々の映像作品を手掛けた白組による世界に向けたアニメーション制作」を1月31日に開く。

同セミナーは、アニメ・映像制作に携わる人や、制作に3DCGツールの導入を検討中の事業者を対象に、オートデスク製品を中核とするデジタルでのアニメ制作ワークフローを説明する。

今回は、スペシャルゲストとして数々の映像作品を手掛けてきたプロダクション、白組の担当者が登壇。1月9日からフジテレビ「+Ultra」で放送するTVアニメ『revisions リヴィジョンズ』のメイキングを中心に、アニメ制作における現場でのエピソードやCG制作フロー、制作を支える社内システムなどについて解説する。受講料は無料。

【講演内容】

▽「TVアニメ『revisions リヴィジョンズ』について」（白組 アニメーションプロデューサー/井出和哉氏）

▽「TVアニメ『revisions リヴィジョンズ』制作ワークフロー」①キャラクターの制作②背景の制作③アニメーション④エフェクト⑤コンポジット⑥制作環境（井出和哉氏、CG監督/平川孝充氏、Technical Director/更谷拓氏、EAST〈東京都千代田区神田駿河台4―6〉撮影監督/高橋和彦氏）

【日時】1月31日/14時30分―18時

【会場】ソラシティカンファレンスセンター sola city Hall

【申し込み・詳細】www.too.com/event/y2019/revisions

## IoT推進ラボ
# 企業連携イベント開催
## 事前登録を18日まで受付

IoT推進コンソーシアムのIoT推進ラボは、「2030年の街づくり」をテーマに、第8回企業連携イベント「IoT Lab Connection」を2月27日に開く。

イベント当日は、1社対1社の個別面談をするビジネスマッチングをはじめ、同会場内でテーマに関するピッチや基調講演などステージプログラムを実施し、さまざまな形でビジネス創出の機会を提供する。参加費は無料。

ビジネスマッチングでは、大手企業、スタートアップ、自治体など、事業の規模や形態を問わず多様な参加者のネットワーキングを実施する。個別ミーティング（20分）は、最大10回程度を予定。全参加企業の中から、会いたい企業を登録する。

ビジネスマッチングの事前登録期限は、1月18日正午。

【日時】2月27日/10―18時

【会場】ベルサール六本木グランドコンファレンスセンター（東京都港区六本木3―2―1 住友不動産六本木グランドタワー9階）

【ビジネスマッチング募集要領】iotlab.jp/ConferenceRoom/article/file/8thConnection_Guidline.pdf

【ビジネスマッチング応募方法】募集要領を確認の上、ラボ会員登録（無料）後、会員サイト内の応募フォームから応募する（定員に達し次第締め切る）

【詳細】iotlab.jp/jp/index.php

## 上映会

◇番組を視聴する会「第5回 放送が伝えた被災地ボランティア～阪神・淡路大震災から24年～」

放送ライブラリーで阪神・淡路大震災に関連した番組7本を上映する。入場無料、申し込み不要（入退場自由）。

【日時】1月14日/10時10分―16時45分

【会場】横浜情報文化センター内（横浜市中区日本大通11）

【詳細】www.bpcj.or.jp


## 映像入札王のご案内

映像新聞社では、株式会社ズノーと業務提携し、同社の展開する入札情報提供サービスと連携した「映像入札王」を提供いたします。

入札王 入札情報提供サービス

**全国の入札情報を毎日メールでお届け！**
**膨大な数の入札・落札公告から効率的な情報入手!!**

### その特長は

**1 業界最大級の網羅性**
全国の発注機関（6,600 機関 11,000 サイト以上）を網羅。専門スタッフの手動収集とプログラム収集の併用で収集漏れを回避。

**2 案件見逃しの防止**
キーワードに左右されないカテゴリー検索、公告の中身まで検索する全文検索、最新案件をお届けするメール配信サービス。

**3 充実のサポート体制**
検索の設定代行、電話・メールによるアフターフォロー、訪問デモによる操作説明、入札参加資格の申請代行（パートナー紹介）など、入札王には万全のサポート体制が整っています。

**4 リーズナブルな選べる料金プラン**
入札王の料金プランは地域選択制で、お客様が自由に都道府県を選ぶことができます。「東京」「大阪」「福岡」といった飛び石での指定も OK ですので、無駄な経費が抑えられます。

映像入札王とは？

**中央省庁、独立行政法人、地方自治体等の入札情報を提供するサービスです。**
**映像制作・関連機器、ホームページ制作、広告制作、情報処理、調査等あらゆる分野の最新の入札情報を毎日ご提供します。**

**10 日間 お試し**
**無料トライアル実施中**
トライアル期間で入札王の
効果を実感してください
**http://www.eizoshimbun.com**

上記 URL からのエントリーで割り引き適用となります

●お問い合わせはこちらへ。
**株式会社ズノー 入札王事務局**　〒106-0044 東京都港区東麻布 1 丁目 5-2
トウセン東麻布ビル 2F　TEL：(03) 6441-0332 ／ FAX：(03) 6441-0336

Panasonic




ULTIMATE CREATIVITY IN YOUR HANDS

EVA 2.5 FIRMWARE

https://pro-av.panasonic.net/jp/eva1/



メモリーカード・カメラレコーダー
AU-EVA1
本体希望小売価格 830,000円（税抜）
※レンズおよびマイクロホンは別売です。

COMPACT CINEMA CAMERA EVA1